

60354

教科書文庫

6

810

34-1949

01304

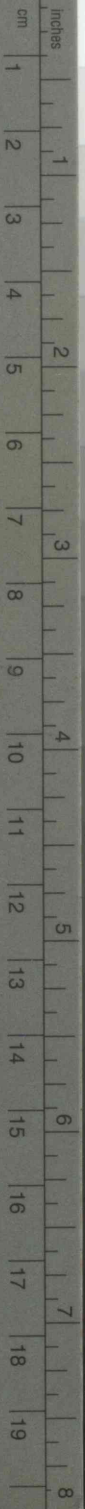
49881

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



文部省検定済教科書



教育部
資料室



小KC
T072

柳田国男編

あたらしいこぐまにねん上



広島大学図書

0130449881



教科書文庫

6

810

34-1949

0130449881

昭和二十四年十月十日文部省検定済
小学校国語科用



あたらしい
こくご

二ねん

広島大学
教育学部図書

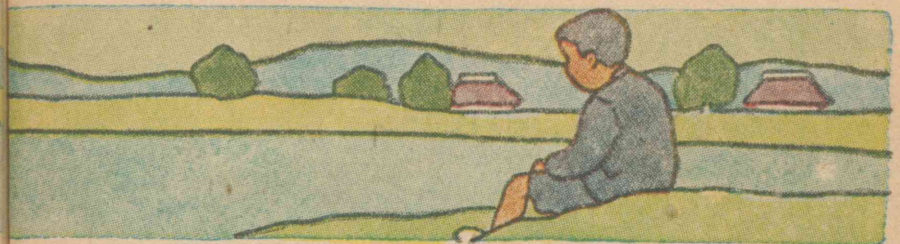
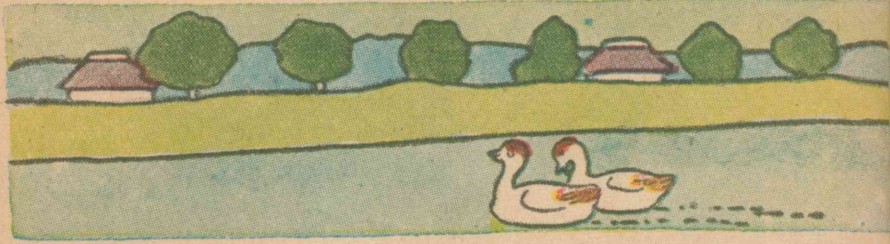
東京書籍株式会社

中央図書館

広島大学図書

0130449881

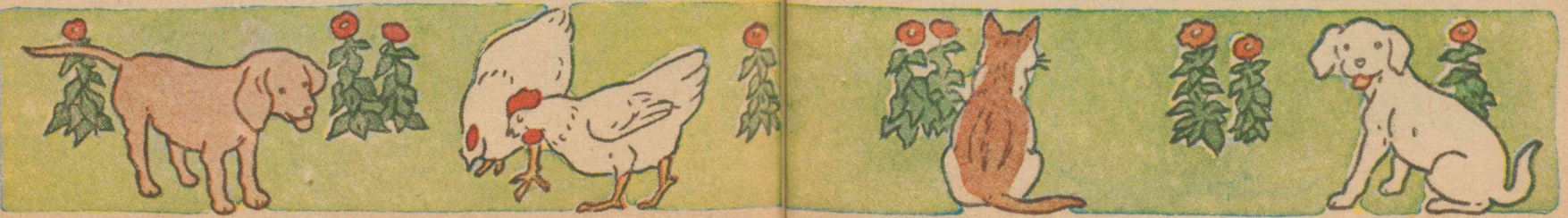




もくろく

一	ひよこ	四
二	えんそく	十五
三	いろいろなもの音	三十
	(一)	きしゃの音	
	(二)	みなどの音	
	(三)	いろいろなもの音	
四	いね	三十六
	(一)	田うえ	
	(二)	いねが大きくなるまで	
五	おはなしかい	四十四
	(一)	じゅんび	
	(二)	おはなしかい	
	(三)	みち子さんのした おはなし	
	(四)	うちに かえってから	
六	水あそび	五十七
	(一)	水でっぼう	
	(二)	川あそび	
	(三)	ささぶね	

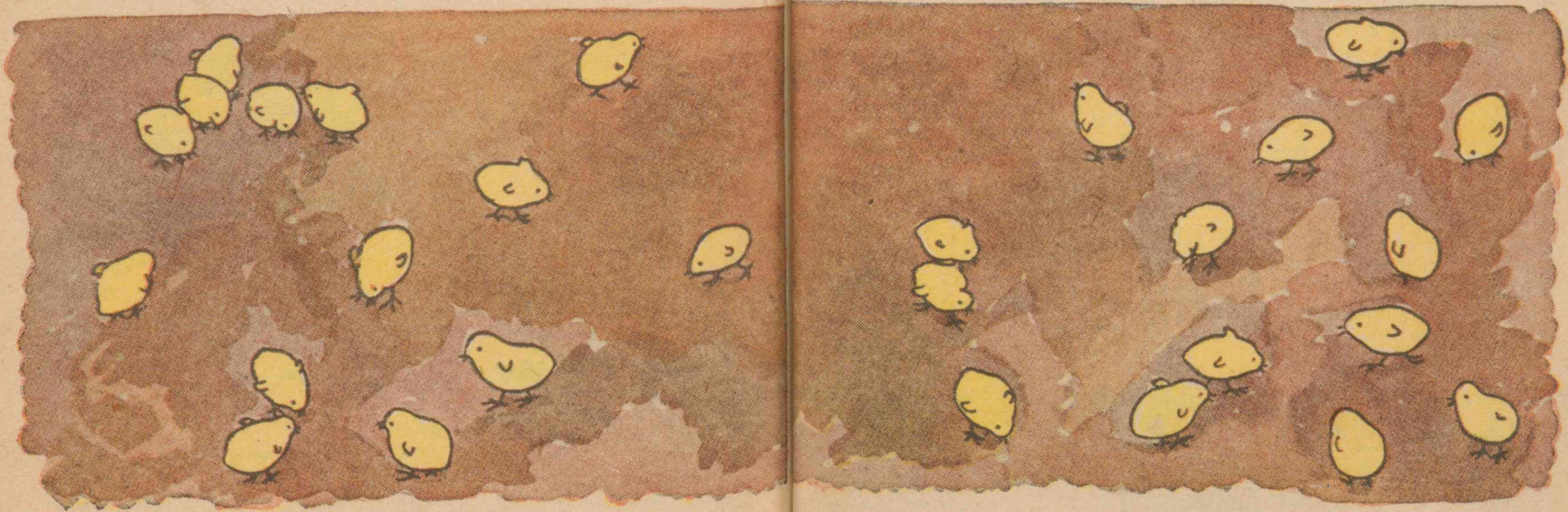
七	えにつき	六十六
	(一)	先生の おはなし	
	(二)	はるおさんの えにつき	
八	町	七十四
	(一)	いろいろな みせ	
	(二)	おまわりさん	
九	どうわ	八十八
	(一)	みえなく なった まり	
	(二)	とんぼ	
五十おん	百八	
ぺんきょうの 手びき	百十	
あたらしく 出た おもな ことば	百二十一	
あたらしく 出た かんじ	百二十七	



— ひよこ —

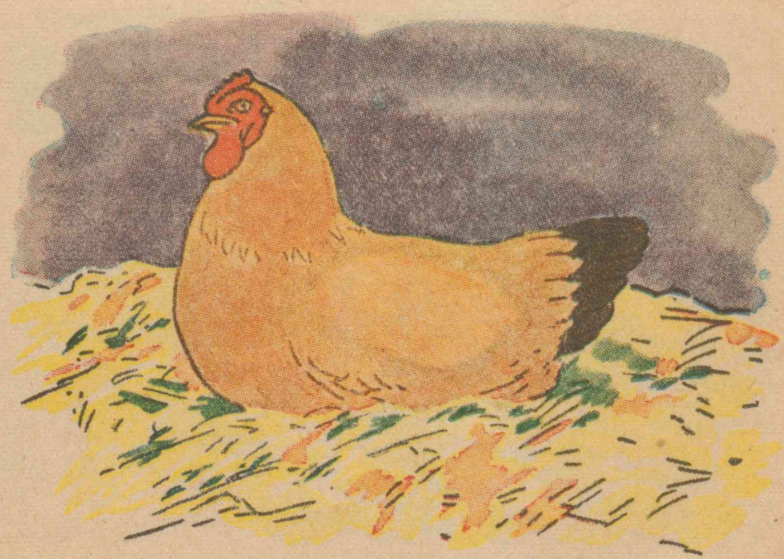
ピヨピヨ ひよこ、
かわいい ひよこ、
きいろい まるい
わたげを つけて、
ちよこちよこ あるく。
かわいい ひよこ、

小さな ひよこ。
ピヨピヨ ひよこ、
小さな ひよこ、
おにわの 中を、
はたけの 中を、
ちよんちよん あるく。
小さな ひよこ、
かわいい ひよこ。



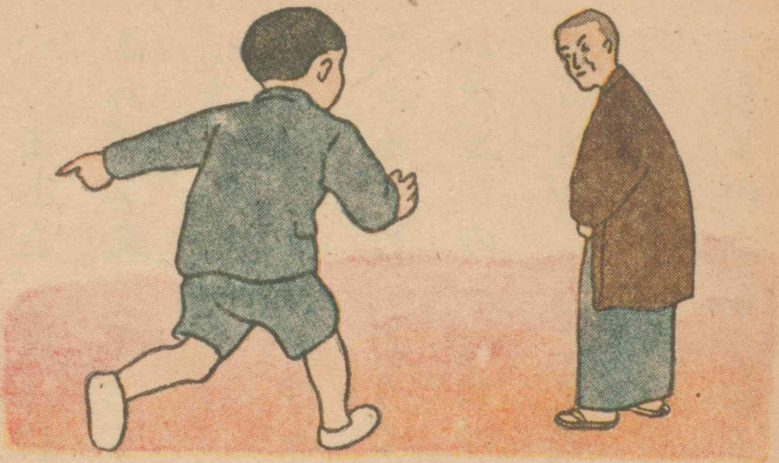
ぼくの　うちの　めんど
りが、とりごやの　中で
たまごを　あたためはじめ
ました。

木の　はこの　中に、た
まごが　十　は　いって　い
ます。おやどりが　よるひ
る　やすみなしに　たまご
を　だいて　あたためます。
たまごが　ひよこに　か



えるまでには　二十一日　かかるのだと、おじいさんが
いいました。ぼくは　はやく　その　日が　こないかと
まちどおしくて　なりません。

二十日目の　ゆうがた、ぼくは　まちきれなく　なっ
て、そつと　とりごやの　中を　のぞきに　いきました。
おやどりの　はねの　下で、ピヨピヨと　ひよこの　な
きごえが　きこえたように　おもいました。おじいさん
の　ところへ　かけて　いって、
「おじいさん、ひよこが　ないて　いますよ。」



と しらせました。

おじいさんは、

「まだ たまごの 中で ないて

いるんだよ。あしたに なれば

からの 中から でて くるよ。」

と いいました。

やに とんで いきました。すずめよりも 小さい ひ

つもより はやく おきて、とりご

つぎの 日の あさ、ぼくは い

よこが ニわ、おやどりの はね
の あいだから あたまを だし
て、ピヨピヨと ないて いまし
た。

ぼくは、

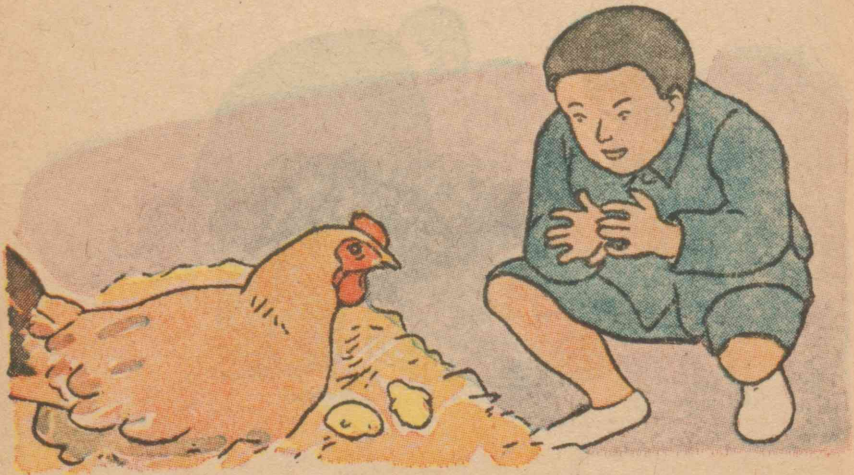
「かえった、かえった。」

と いった 手を たたきました。

学校から かえると、みんな

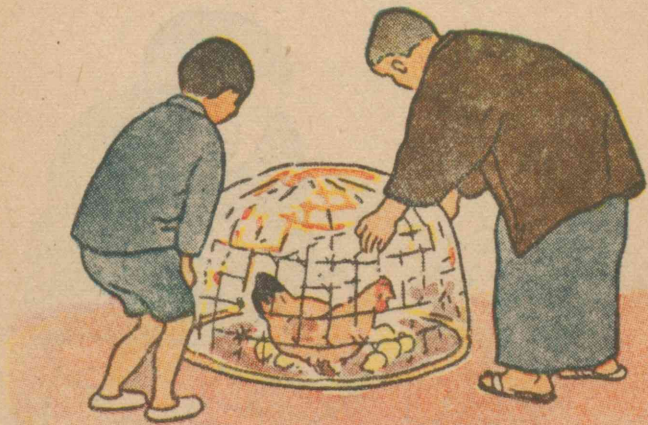
かわいい ひよこに なって い

ました。おやどりの はねの 下



にもぐって いる ものも い
ます。そとに でて、よちよちと
あるきはじめた ものも います。
となりの なお子さんも みに
きました。ふたり ならんで、い
つまでも みて いました。

二日目に、おじいさんは ひよ
こを おやどりと いっしょに、
日あたりの よい にわさきに



だしました。上から 大きな たけかごを かぶせまし
た。

おばあさんが えさを つくりました。水も 入れて
やりました。

ゆうがた、おとうさんが ひよこを おやどりと い
っしょに、かなあみを はった 大きな はこに 入れ
ました。そして その はこを とりごやの 中に し
まいました。ひよこを つめたい ふうきに あてない
ためです。

すこし たってから、ぼくは また とりごやの中



さわろうと しました。すると、おやどりは おこった
 ように クッククツツと 行って、くちばしで ぼくの
 手を つつこうと しました。

へみに いきました。
 ひよこは もう おや
 どりの はねの 下に
 はいって いました。
 ぼくは そつど か
 なあみの ふたを あ
 けて、その 一羽に

まい日 ひよこを みるのが ぼくの たのしみに
 なりました。

ひよこは だんだん 大きく なりました。

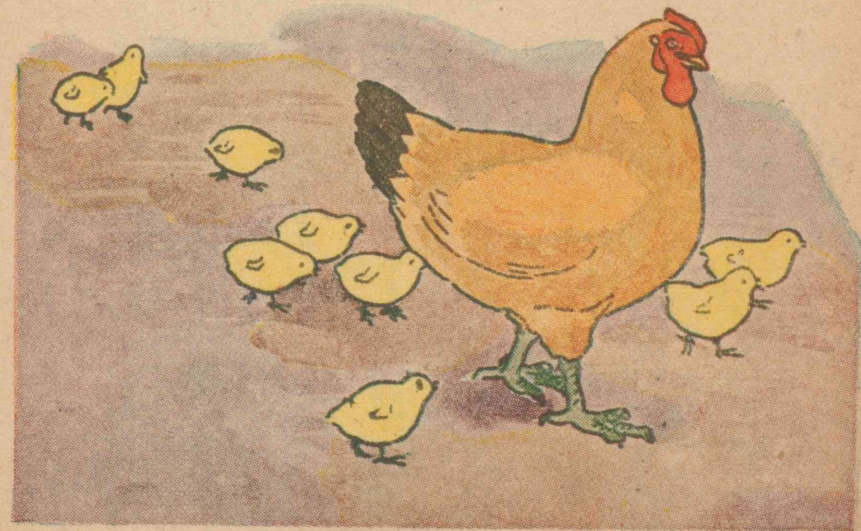
あたたかい 春の 日を あびて、ひよこたちは お
 やどりの まわりを かけまわったり せなかの 上に
 あがったり して あそびます。

おやどりが えさの ある 方へ あるいて いきま
 すと、ひよこは ピヨピヨと おいかけて いきます。
 おやどりは ククククと ないて、ひよこたちを よ

びあつめます。そして た
べかたを おしえます。

ひよこは、かえってから
もう 三十日ほど たちま
した。いまでは だいぶ
大きく なりました。

ぼくは ひよこたちを
かわいがって そだてて
いこうと おもいます。



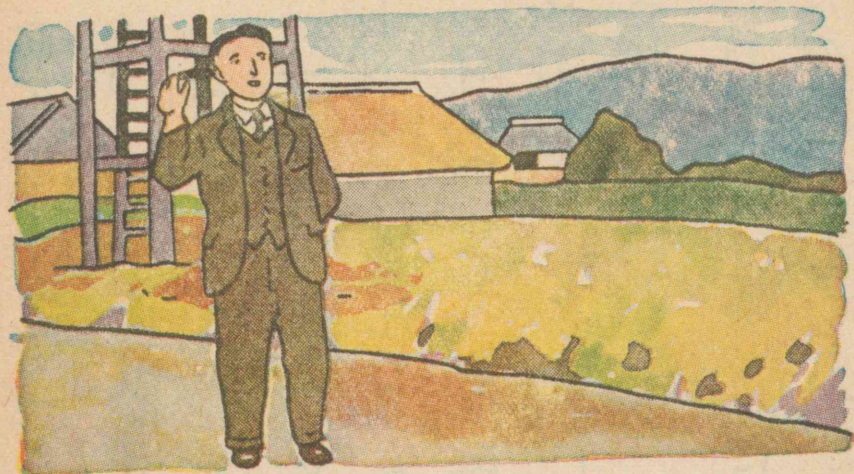
二 えんそく

(一)

きょうは えんそくです。たきを みに いくのです。
あさ はやく 学校に あつまりました。みんな う
れしそうです。先生が いらっしやいました。

「おてんきで よかったね。」

「ぼくが てるてるぼうずを つくったからです。」
いさむくんが こたえますと、

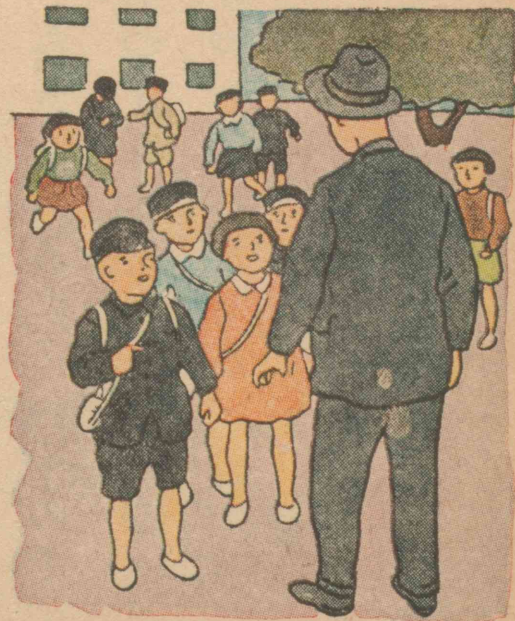


「はい。」
と ことえました。

一くみ 二くみの じゆんに
校門を できました。校ちよう先生
は、火のみやぐらの ところまで
おくって くださいました。

日が ぽかぽかと あたたかく
てって います。むぎばたけが
つづいて います。れんげの は

「わたくしも つくりま
した。」
「ぼくも つくりました。」
と、くちぐちに いいま
した。
やがて しゅっぱつで
す。校ていに ならびました。校ちよう先生が、
「それでは げんきで 行って いらっしゃい。じぶん
かってな ことを しては いけませんよ。」
と おっしゃいました。みんな げんき よく、



なが きれいに さいて います。
ちようちよが ひらひら とんで
います。

一くみと 二くみとは 二十メ
ートル はなれて あるきました。
村はずれで さだおくんの お
とうさんに あいました。うまを
つれて いました。

はや川の かわらに つきまし
たので、そこで すこし やすみ

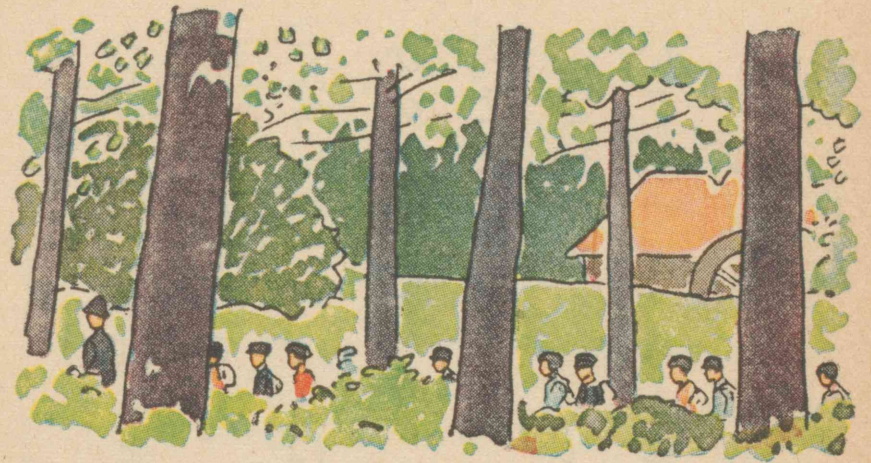
ました。

はや川の はしを わたります
と となり村です。

みちが のぼりに なりました。
ひがし山も すぐ 目のまえに
みえて きました。

となり村の やくばの まえで
もう 一ど やすみました。先生
も みんなも 水とうの 水を
のみました。





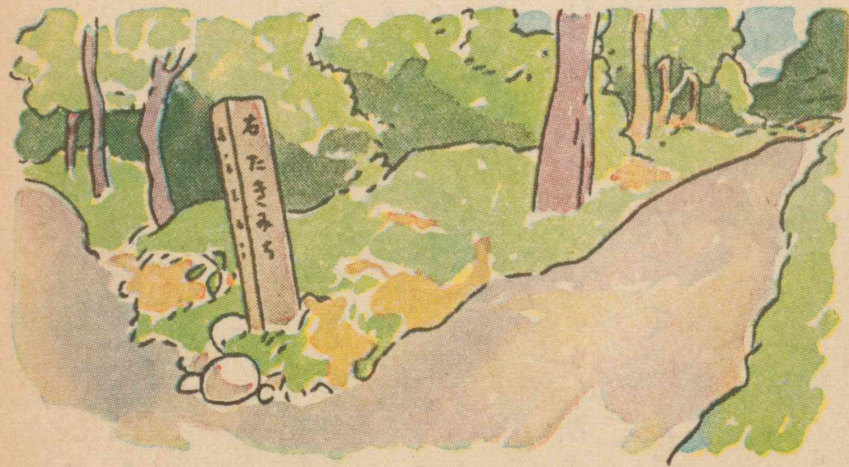
「さあ、もう 一いきだ。」
 先生が 大きな こえで おっ
 しゃいました。みんなも げんき
 に 立ちあがりました。

こんどは ニくみが さきに
 になりました。水しやごやの よこ
 から 山みちに はいりました。
 みちは せまく になりました。み
 どりの 木のはの トンネルの
 中を ぬけて いきました。

みちしるべが 立って しまし
 た。「右 たきみち」とかいて
 ありました。みちしるべの とお
 り 右へ まがりますと、谷川の
 おどが きこえて ききました。

ホ ホウ ホケキヨ
 「あつ、うぐいすだ。」
 だれかが 大きな こえで い
 いました。

ホウ ホケキヨ





ホウ ホケキヨ

うぐいすは なきつづけて い
ます。

山の みちは しめって いま
す。やがて たきの ところに
つきました。

しげった わかばの あいだか
ら 大きな おどを たてて た
きが おちて いました。

よしおくと ひろしくんは、くりばやしで べんと
うを たべました。

いさむくと さだおくと ふみえさんと ゆみ子
さんは、まつの 木の ねに こしを おろしました。
べんとうを たべて いる ところへ 先生が いらっ
しゃいました。

「みんな おいしそうな べんとうを たべて います」
ね。

と おっしゃいました。

べんとうを たべてから なわとびを しました。

わらびを とった 人も あり
ました。

すみれの はなを つんだ 人
も ありました。

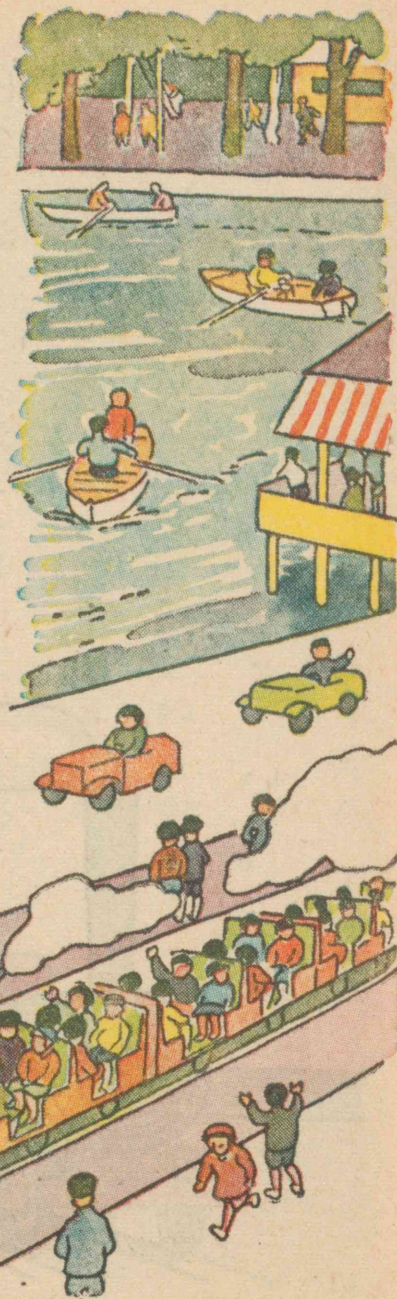
かえりは くだりざかです。げ

んきに うたを うたいながら

かえりました。学校に ついた

ときには みんな くたびれて

いました。

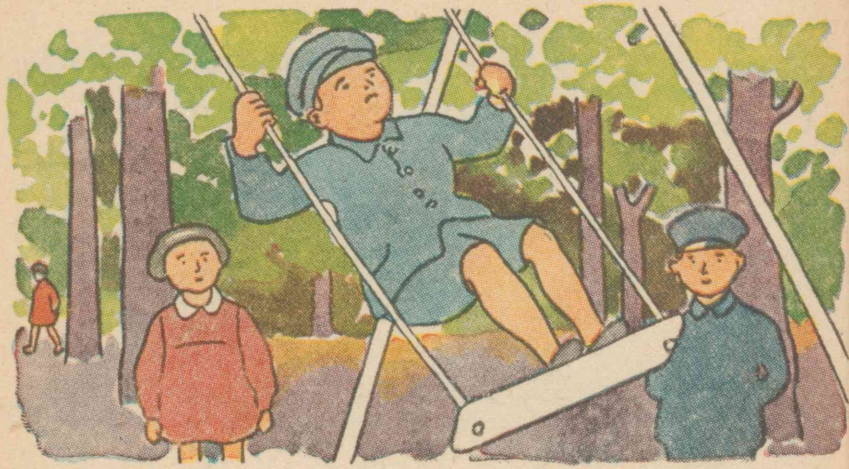


(二)

きのう ゆうえんちへ えんそく

にいきました。かえってから み

んなは うたを つくりました。



ただしくんの つくった うた
 はやしの 中の ぶらんこは、
 ギイッコ ギイッコ
 ゆれて いる。
 あきらさんは じょうず、
 よし子さんも じょうず。
 山まで とどけ、
 空まで とどけ。

はるおくんの つくった うた

子どもの きしゃが はしって いる。

ピイ ポウ

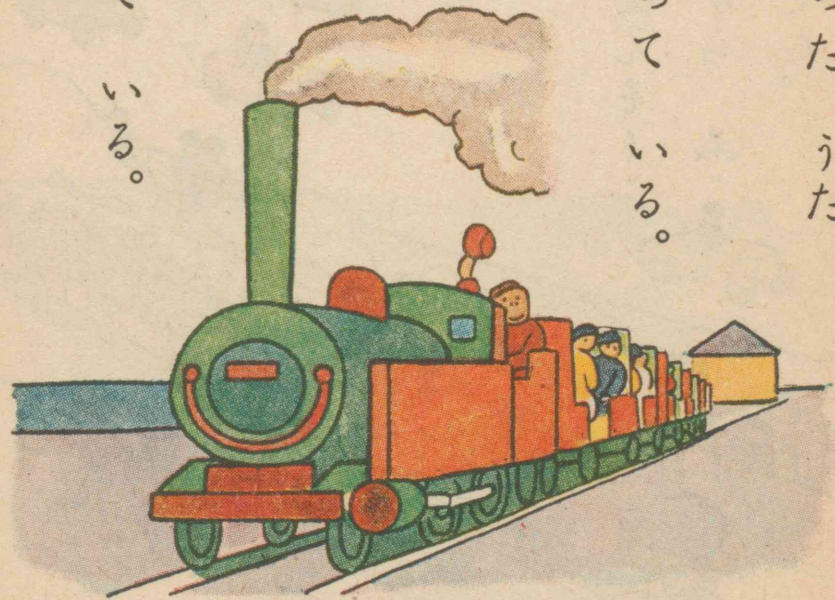
ピイ ポウ

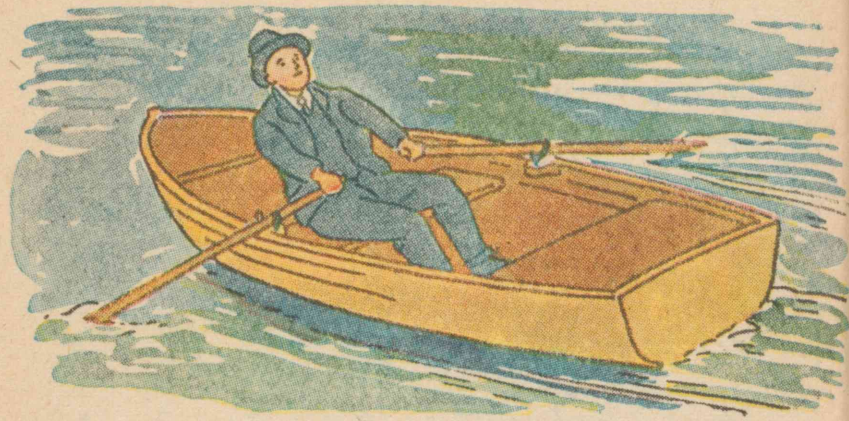
ピイ シュツ シュツ

うんてんしゅは おさる、

あかい ふく

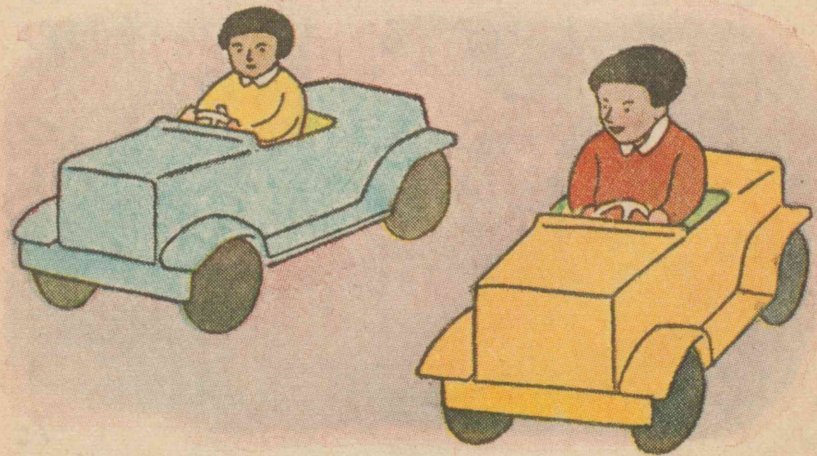
ときどき ぼうしを とって いる。





あさおくんの つくった うた
 ボートが いけを すべって いく。
 すい すい
 あめんぼうのようだ。
 先生の ボートは はやいなあ。
 ひごいが にげる、
 まごいも にげる。
 ボートが いけを すべって いく。

あつ子さんの つくった うた
 ゆり子さんの じどうしゃ
 空の いろ、
 きみ子さんの じどうしゃ
 みかんいろ。
 ハンドル にぎって
 はしります。
 なかよく ならんで
 はしります。



三 いろいろなものの音

(一) きしゃの音

ジジジジジ

きしゃの でのる あいずの

ベルが なります。

ピー

きてきが なりました。

シューツ ポツ ポツ ポツ

きかんしゃが

うごきだしました。

ゴトゴトガツタン

ゴトゴトガツタン

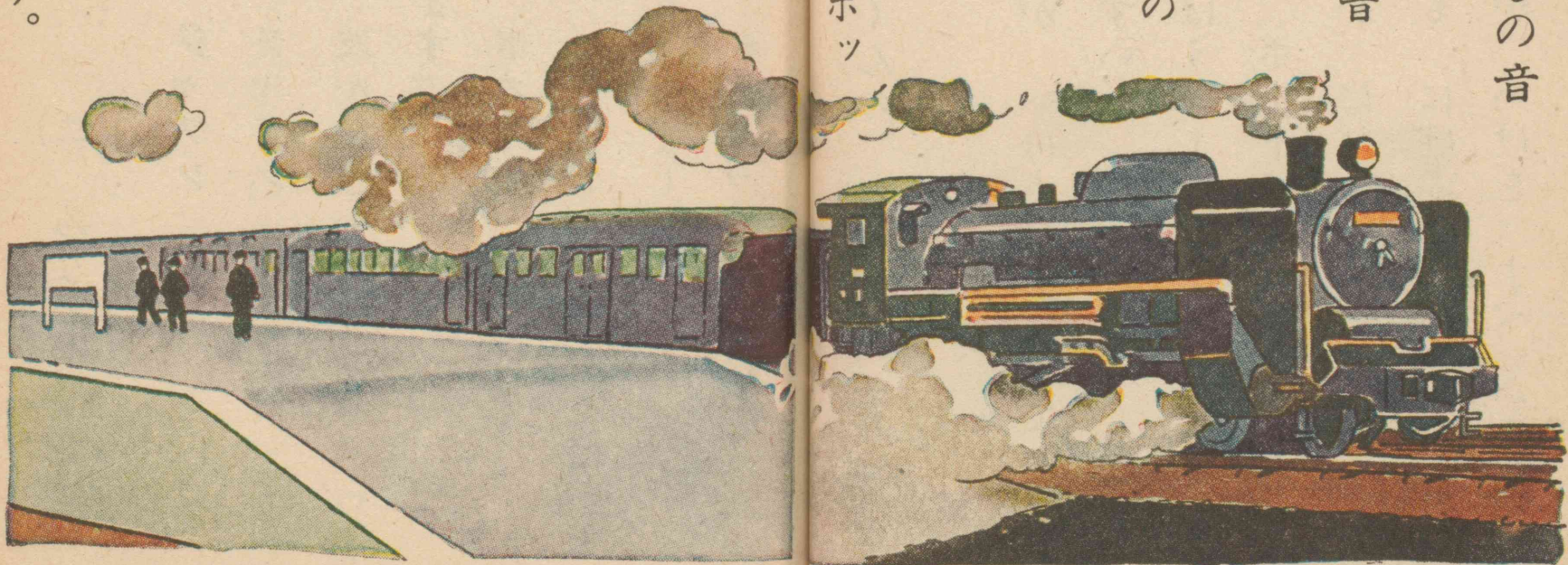
きしゃは もう はやく

はしって います。

ちかくに みえる

はたけや もりが、あとへ

あとへと とんで いきます。





(二) みなとの音

ジャブン ジャブン

ジャブン

波が きしに よせて い
ます。

ポオオー ポオオー

大きな きせんが はいっ

て きました。

ポッポッポッポッ

小さな はつどうきせんが

とおって いきます。

ガラガラ ガラガラ

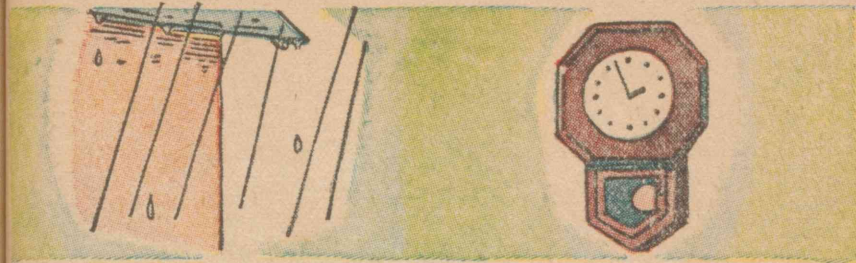
きしでは にあげを して

います。

ブブウ ブブウ ブブウ

にもつを つんだ トラックが はしって いきます。

みなとは もう ひるです。おきには 白い かもめ
が とんで います。



(三) いろいろなもの音

カッチン カッチン カッチン

とけいの ふりこが やすみなしに う

ごいて います。

ポツツン ポツツン ポトン

ポツツン ポツツン ポトン

のき下に あまだれの 音が きこえま

す。

トツテンカン トツテンカン

かじやさんが いっしょうけんめいに

つちを ふって います。

リンリンチリン チリリンリン

えんがわで ふうりんが なります。

トンツーツー トンツーツートン

でんしんきよくで でんぼうを うって

います。

この ほかにも まだ いろいろな 音

があります。みんなで いって みまし

よう。

四 いね

(一) 田うえ

きょうは、ぼくのうちの

田うえです。おとうとのすすむと

ふたりで、たんぼに おちやを は

こびました。

きんじよの おじさんや おばさんたちが、

六人も 手つだいに きて にぎやかです。



おじさんたちは 一れつにな

つて、なえを ずんずん うえて

いきます。みて いる うちに、

なえが きょうぎ よく ならん

で いきます。

「おとうさん、おちやを はこん

で きましたよ。」

すすむと いっしょに 大ごえ

で よびました。

「ありがとう。おお、すすむも



きて くれたのか。」

おとうさんは そう 行って、

「みなさん、やすみに しましょう。」

と、みんなに こえを かけました。

「さだおさん、まい日 ごくろうさんだね。」

となりの おばさんが こちらを

むいて につこりしました。

むこうの 方から、

「大きな どじょうを とって おいたぞ。」

と、にいさんの こえが しました。かけ

て 行って のぞいて みました。に「ごっ

た 水の 中に 五六ぴき いるようです。

「ずいぶん いるね。」

「わあ、いる、いる。」

すすむは 大よろこびです。



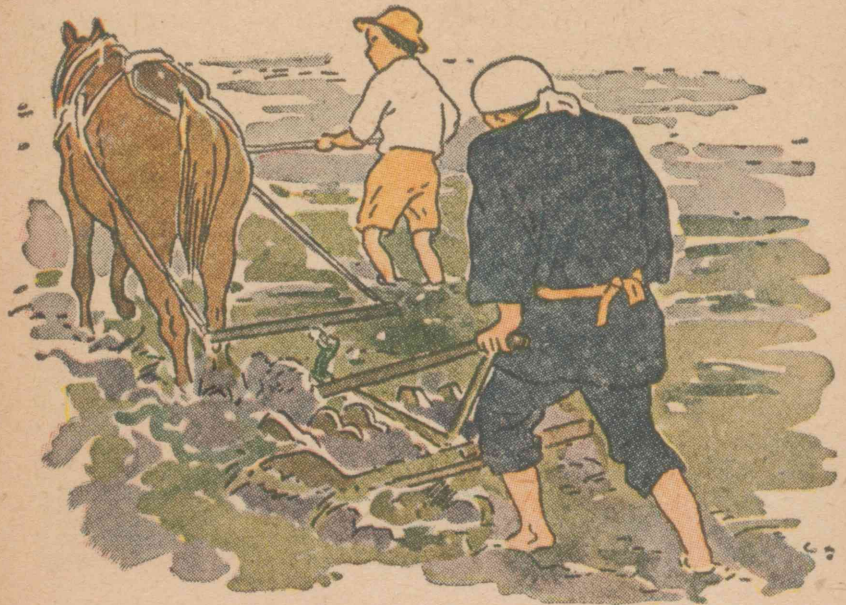
おとうさんたちは どてに こしを おろして、おち

やを のみながら はなしあって います。

「ことしは 水が たくさん あるので 大だすかりだ。」

「これなら あしたで おわりそうだね。」

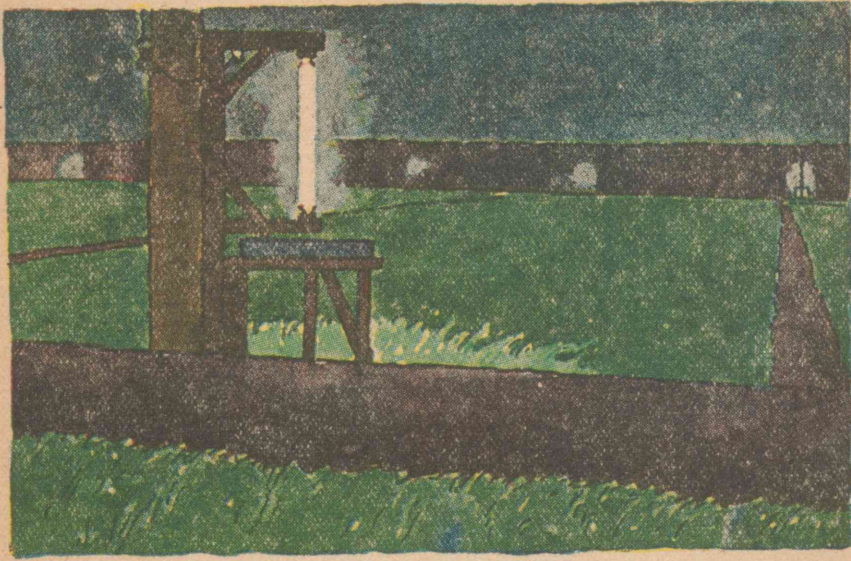




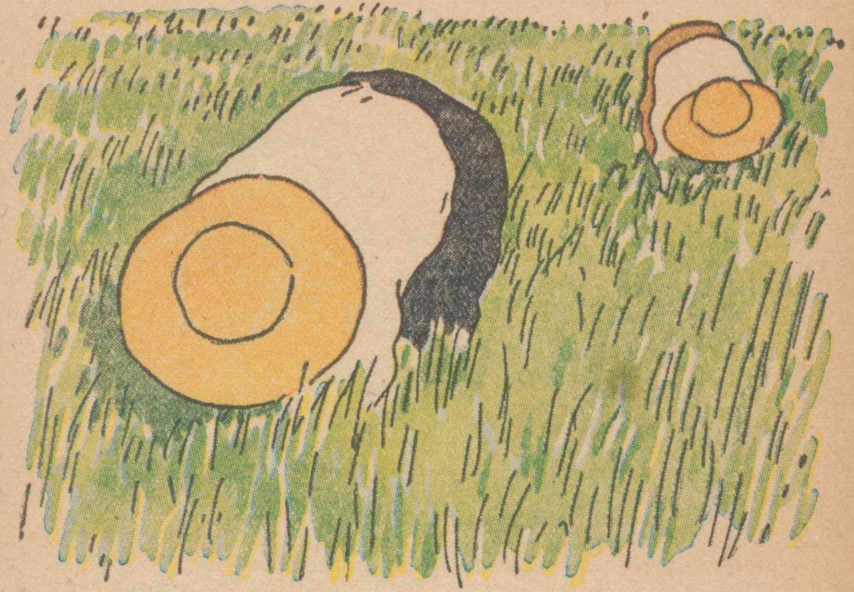
田うえをする まえに
 いろいろ じゆんびをし
 ます。すきかえした 田に
 水を入れます。それから
 うまか うしを つかって
 ならします。この ならす
 のを しるかきと いいま
 す。
 しるかきが すむと い
 よいよ 田うえです。



(二) いねが 大きく
 なるまで
 なわしろに たねを ま
 いて います。たねには
 虫の ついて いない よ
 い もみを えらびます。
 まいてから めが でて、
 なえに なるには 四十日
 ぐらい かります。



よるに になると、田の
 ところどころに ゆうがと
 うを ともします。
 いねに つく わるい
 虫を よびよせて ころす
 のです。
 よるの 田は、あちら
 こちらに あかりが みえ
 て 大へん きれいです。



うえつけられた なえは
 ぐんぐん そだって いき
 ます。くさも どんどん
 のびるので なんべんも
 くさを とります。
 あつい 日に てらされ
 て くさを とる ことは、
 なかなか ほねの おれる
 しごとです。

五 おはなしかい

(一) じゅんび

あしたは わたくしたちの く
みの おはなしかいです。

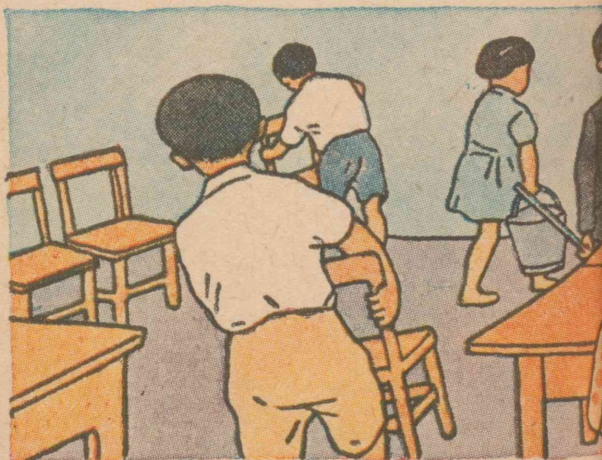
じゅぎょうが おわってから、
みんなで きょうしつを きれい
に しました。つくえの 上に
やまぶきの 花を かざりました。



こくばんには おはなしかいの
プログラムを かきました。きよ
うしつの うしろに いすを な
らべました。あした おかあさん
たちが こしかける いすです。
いろいろの じゅんびを すまし
てから たのしく かえりました。

(二) おはなしかい

おはなしかいは ごぜん 十じから はじまりました。



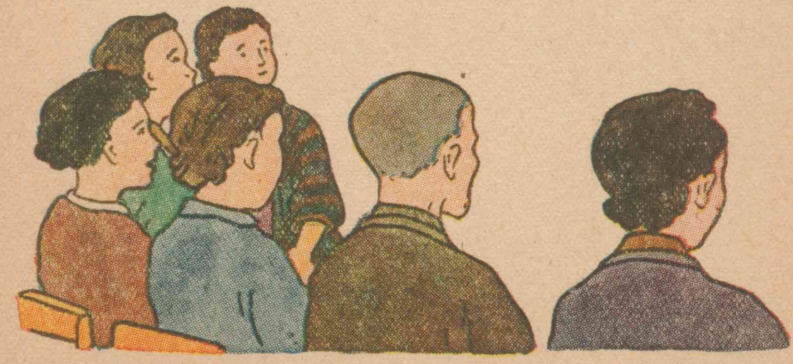


はるおさんの おかあさ
んも あつ子さんの おじ
いさんも きました。わた
くしの おかあさんも きて
ました。

あつ子さんが おはなしかいを しました。
はじめの あいさつ

「これから わたくしたちの くみの おはなしかいを
します。こくばんに かけた プログラムの じゅん
じよで 始めます。」

きようは みなさん 大ぜい おい
てくださいいまして ありがとう ご
ざいます。」
あつ子さんの あいさつが すむと、
みんなが 手を たたきました。
一ばん はじめに、ただしさんが
イソップの おはなしを しました。
はるおさんは「うさぎと かめ」の
かみしばいを しました。
ゆり子さんと あつ子さんと あさ



おさんは なのなぞを しました。

みち子さんは おじいさんの おはなしを しました。

みち子さんの おはなしは 大へん じょうずでした。

ことばが はっきりして いるし、おはなしの ちょう

しも よく、みんなが 手を たたきました。

おんがくも ありました。

先生は ワシントンの おはなしを して ください
ました。

おかあさんたちは おわりまで にこにこ して き
いて いました。



(三) みち子さんの した おはなし

わたくしの おじいさんは ことし 七十です。

おじいさんは 小とりが 大すきで、まい日 まい日
とりかごの 小とりを ながめて います。

小とりは みんなで ハわ
 います。うぐいすや ぶんち
 ようや じゅうしまつや カ
 ナリヤなどです。おじいさん
 は あさ おきると すぐ
 小とりを えさや 水を や
 ります。とりかごの そうじ
 も します。ときどき えん
 がわに つるして 日なたば
 っこを させます。



この あいだ 雨が ふりました。その とき おじ
 いさんは きんじよの うちへ 行って いました。あ
 わてて かえって きて、
 「とりかご とりかご。」

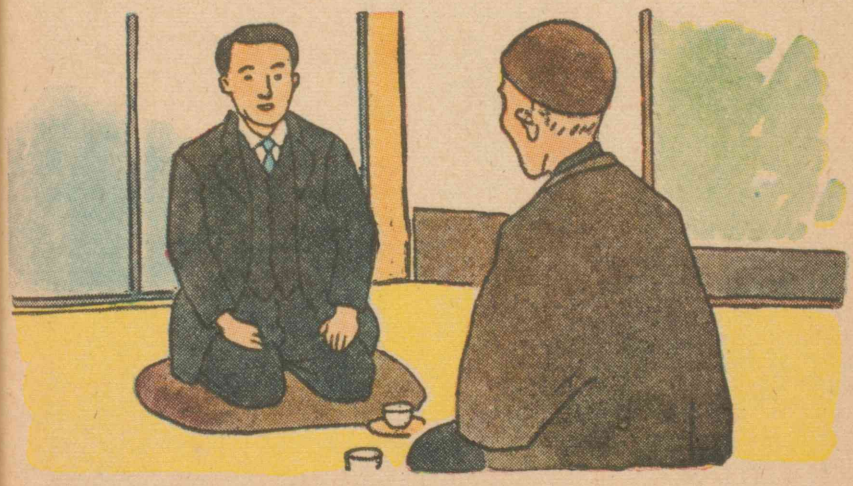


と、げんかんで さげんだので、みんなは くすくす
 わらいました。
 雨が ふりそうに なった
 とき、わたくしは おかあさん
 と いっしょに とりかごを
 へやに 入れて おいたのです。

おじいさんは たべものでは
くりきんとんと どうふの みそ
しるが すきです。おじいさんの
たんじょう日は 六月十日です。
この 日は まいねん、
「さあ さあ、きょうは わしの
たんじょう日だ。どうふじるだ
よ。」

と います。

おじいさんは いつも まるい



けいどの ぼうしを かぶって います。へやの 中で
も かぶって います。おきやくさまと はなして い
る ときでも かぶって います。

(四) うちに かえってから

夕はんの とき、 うちじゅうで きょう 学校で し
た おはなしかいの ことを はなしあいました。

「みち子さんの おはなしは じょうずでしたね。おじ
いさんの ようすが 目に みえるようでしたよ。」
と、おかあさんが おほめに なりました。

わたくしは ゆり子さんが した なぞなぞを ねえ
さんに だして みました。

「どうきょうでも アメリカ
でも イギリスでも、せか
いじゅう どのの くへ
いっても、きつと 四つ
ある ものは なんでしょう。
おとうさんが すぐ そばから、
「この うちにも あるよ。」
と おっしゃいました。」



ねえさんは すこし
かんがえてから、
「それ、目に みえない
ものでしょう。」
と いいました。



「そうです。」
と、わたくしが いったら、ねえさんは、
「わかった。ひがし にし みなみ きたの 四つでし
ょう。」
と、あてて しまいました。



んが アメリカのはなしを いろいろ して くれま
した。

ねえさんは、

「うちの おはなしかいも なかなか おもしろかった」
わね。ときどき しましうよ。」
と いったので、みんなで わらいました。

夕はんが すんでから おかあ

さんは、先生が はなした ワシ

ントンの しゃしんを みせて

くれました。それから おとうさ

六 水あそび

(一) 水でっぼう

シュツ シュツ シュツ

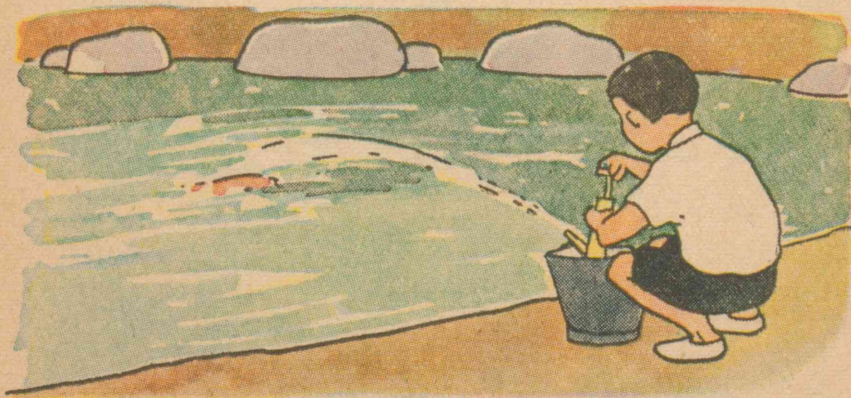
水でっぼうから いきおい よく

水が 出ます。にわの いけまで

とどきます。こいが およいで き

ました。こいを ねらって 水を

とばしました。こいは しらない



かおを して お
 よいで いった
 しまいました。
 力を 入れて
 とばしました。こんどは
 いけの むこうがわまで
 とどきました。いけの むこうがわの
 石が すっかり ぬれました。

くさかげから かえるが 出て きました。かえるに



水を かけました。かえるは ポチャんと いけに と
 びこみました。

もっと とおくまで とばそうと おもいました。い
 けの むこうがわの うめの 木に
 みが なって います。うめの
 みに 水を かけようと
 おもいました。なか
 なか とどきません。
 その うちに よう
 やく うめの みに



水が かかりました。

もつと とおくまで とばそうと おもいました。空
まで とばそうと おもいました。

(二) 川あそび

「はるおくん、川へ

あそびに 行こう。」

と、あさおくんが

さそいに きました。

はるおくんは お



かあさんに いって、
あさおくんといっし
よに ちかくの 川へ
行きました。

川では 大ぜいの

ともだちが、きやつきやつと

さわぎながら 水を かけあつ

て あそんで いました。

はるおくんも あさおくんも

すぐ はだかに なって 川に





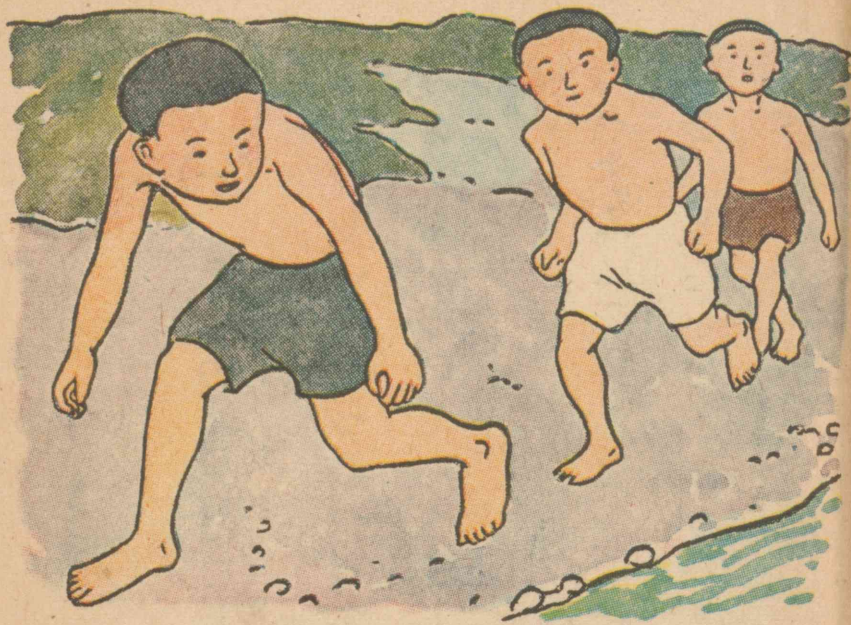
はいりました。ふかい　ところは あぶ
 ないから、あさい　ところで　めだかを
 とったり、きれいな　石を　ひろったり
 して　あそびました。ただしくんが　ゴ
 ムまりを　もって　きたので　まりなげ
 を　しました。あさおくんが　まりを
 うけそこないました。まりは　ながれて
 いきました。あさおくんは　まりを　お
 いかけましたが、水の　中なので　うま
 く　あるけません。

「おうい。」

と　こえを　かけて、むこうに　いた
 ともだちに　ひろって　もらいました。
 はるおくんたちは　かわらへ　あが
 って　ねころびました。ただしくんが
 はるおくんの　足を　みて、
 「あ、足の　うらが　白く　なって

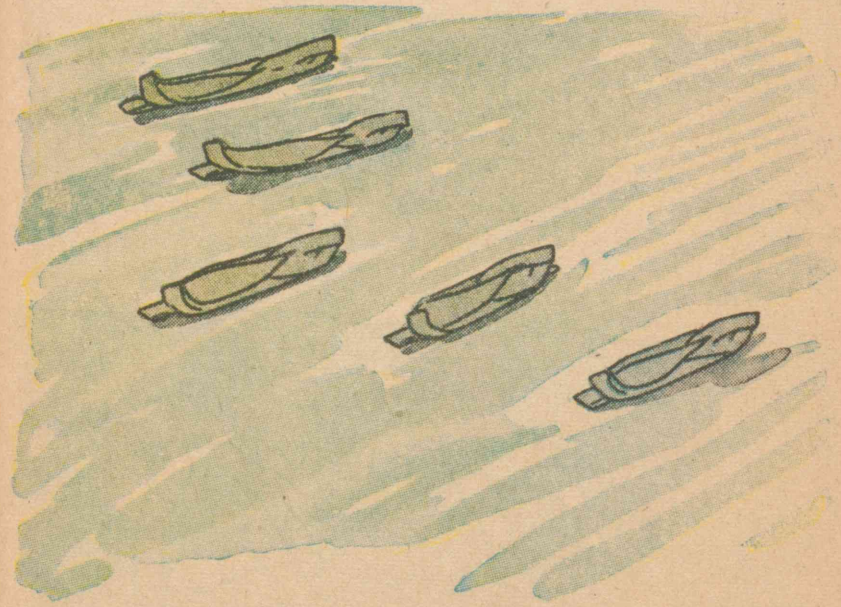


いるよ。」
 と、大きな　こえで　いいました。みんなは　じぶんの
 足の　うらを　みました。白く　なって　いました。



(三) ささぶね

走る 走る、
 ささぶね 走る。
 みんなで 五つ、
 すいすい 走る。
 どれが 一ばん
 はやいだろ。



ささぶね 走れば、
 ぼくらも 走る。
 走れ 走れ、
 ささぶね 走れ。
 そよかぜ そよそよ、
 ささぶね ゆれる。
 ゆれても 走れ、
 ささぶね 走れ。

七 えにつき

(一) 先生の おはなし

たのしい なつの やす

みが ちかづいて きまし

た。

「やすみに どんな こと

をしたいと おもいま

すか。」



と、先生が おっしゃいました。

えにつきを かきたいと いう 人が 多かったので、

先生が えにつきの はなしを なさいました。

「その 日に あった おもしろい ことを えにか

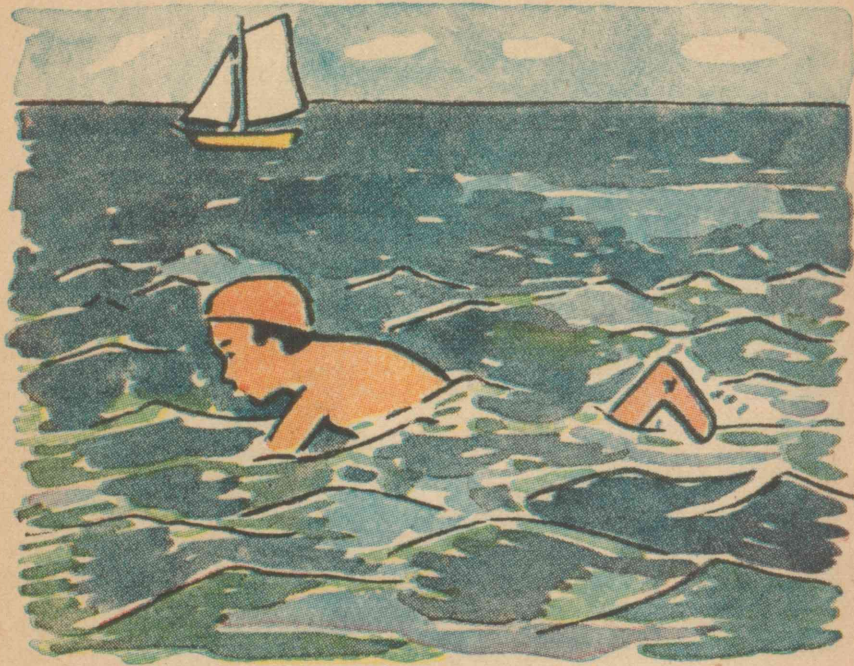
くと よいのです。それに おはなしも つけましょ

う。

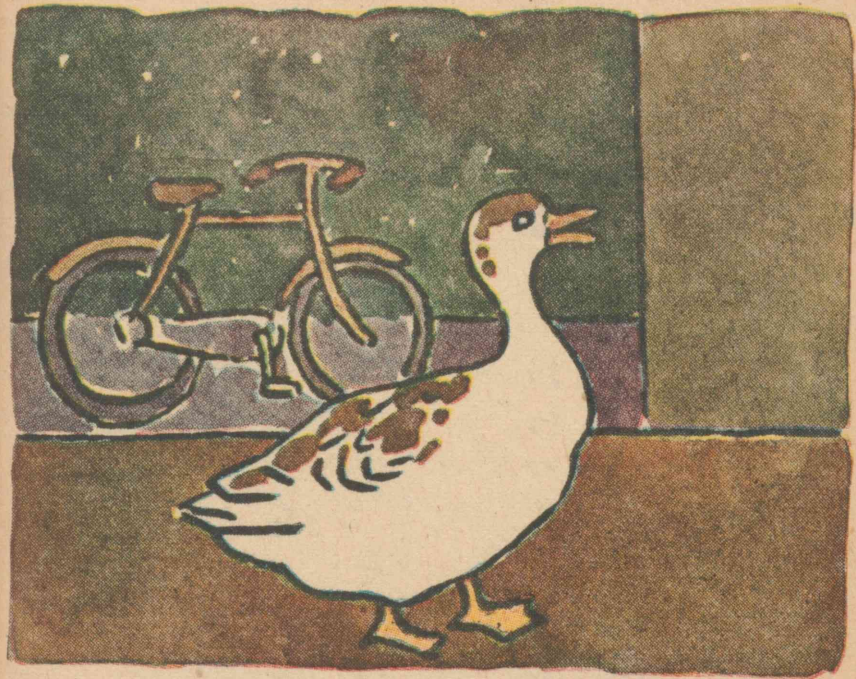
やすみが おわって どんな えにつきが できて

くるか、まちどおしいですね。」

(二) はるおさんの えにつき



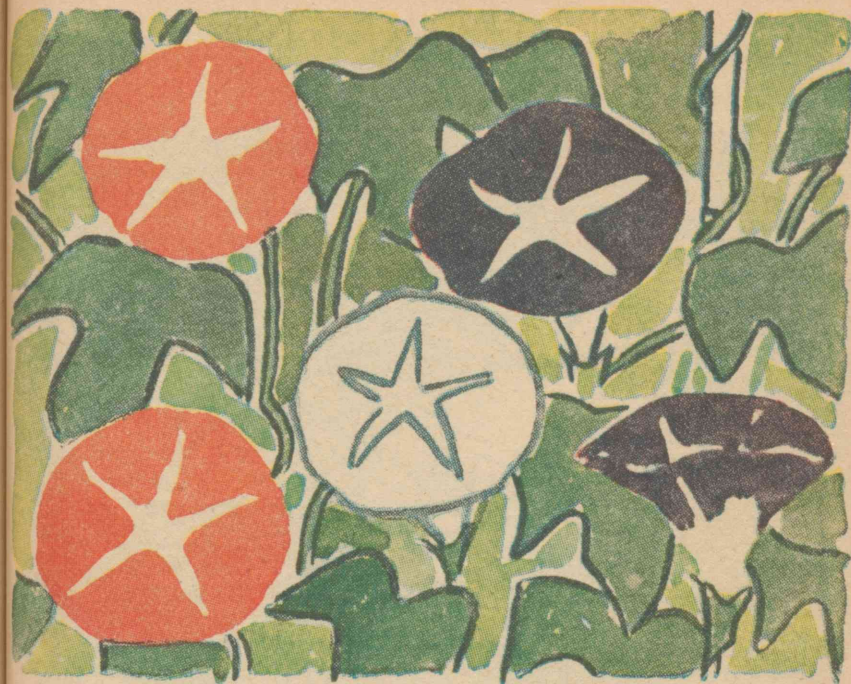
八月二日 はれ
 おじさんと うみへ
 行きました。おじさんが
 うきかたを おしえて
 くれました。はじめは
 水に かおを 入れるの
 が いやでした。すぐに
 なれました。
 おきには ふねが う
 いて いました。



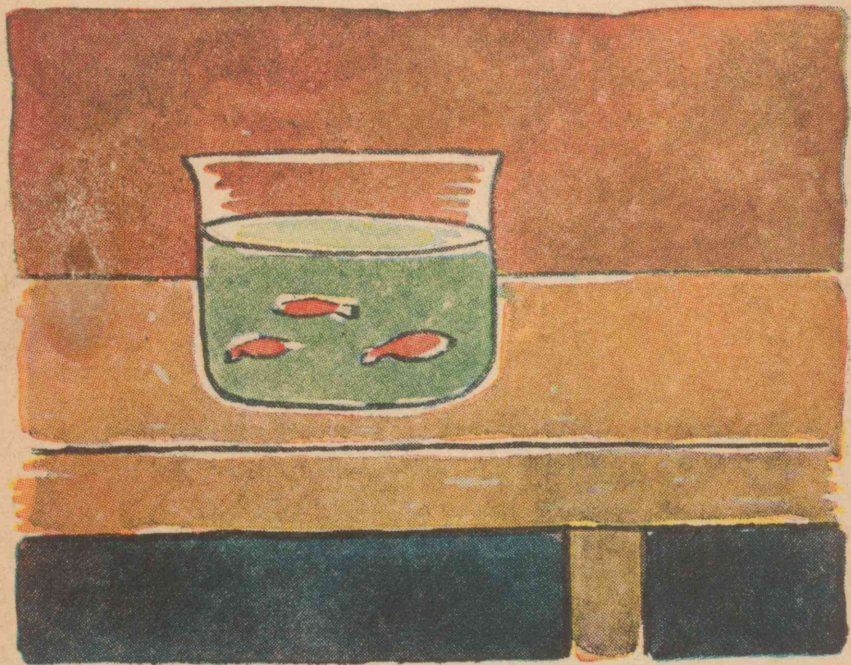
八月一日 くもり
 けさ ゆき子と いっ
 しょに おつかいに 行
 きました。
 じてんしゃの まえ
 を あひるが よちよち
 あるいて いました。お
 かしいので ふたりで
 わらいました。



八月十二日 はれ
 おかあさんに 花火を
 かって もらいました。
 くらくなるのを ま
 っで、にわで 花火を
 しました。
 シユツ シユツと 音
 を たてて、あかや あ
 おの 火が 出ました。
 大へん きれいでした。



八月七日 はれ
 けさ あさがおが 五
 つ さきました。
 白と あかと むらさ
 きです。
 きれいなので えに
 かけて みました。ゆき
 子にも かけて やりま
 した。



八月二十四日 はれ
 あさおくんが あそび
 に 来ました。えんがわ
 で いっしょに きんぎ
 よを みて あそびまし
 た。きんぎよの 水を
 かえて やりました。
 それから ふたりで
 ぼうふらを とって 来
 て やりました。



八月十八日 雨
 ただしくんの うちへ
 あそびに いって いる
 と、雨が ふって きま
 した。ゆき子が かさを
 もって 来ました。しろ
 も いっしょに むかえ
 に 来ましたので、ぼく
 は しろの あたまを
 なでて やりました。

八町

(一) いろいろなみせ

大どおりには たくさんのみせが ならんで いま
す。

いつも きれいなのは おもちゃやです。小さいと
き え本や きしやを かいました。ボールも ここで
かいました。

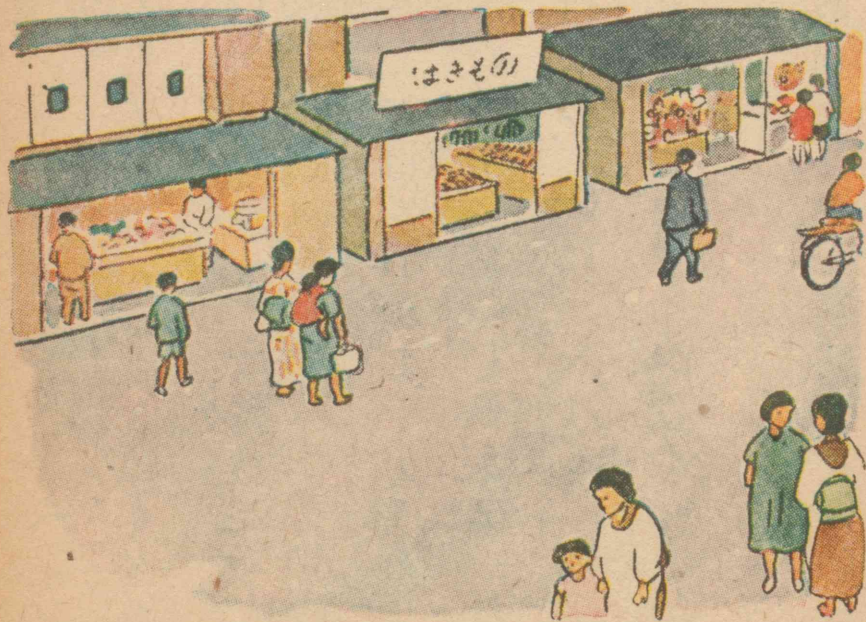
おもちゃやの となりは はきものやです。げたや

ぞうりなどを かいに 行
きます。

はきものやの となりは
くだものやです。ぶどうや
なしや りんごが たくさ
ん ならべて あります。

このあいだ おかあさんに
ぶどうを かって いただ
きました。

くだものやの となりは





かしが、いっぱい ガラスばこの 中に 入れて あり
 ます。ときどき キャラメルや チュウインガムを か
 いに 行きます。

おかしやの となりは あらものやです。ほうき ち

やおやです。きやべつや
 だいこんや かぼちゃな
 どを うって います。
 やおやの むこうがわ
 には おかしやが あり
 ます。おいしそうな お

りとり バケツ なべ べんとうばこ せんめんきなど
 が ごたごた ならべて あります。一ねん生の えん
 そくの とき、ここで 水とう
 を かいました。

あらものやの となりは 本
 やです。きれいな 本が たく
 さん ならべて あります。ざ
 っしも たくさん ならべて
 あります。かたがわの たなに
 は、えんぴつや けしゴムや





ばさんは いつも にこにこ
 して います。子ども
 たちは おばさんが すき
 です。たくさんの 子ども
 が いつも ここへ あつ
 まって 来ます。
 本やの となりは さか
 なやです。いかや さばや
 たらなどが、大きな はこ
 に 入れて つんで あり



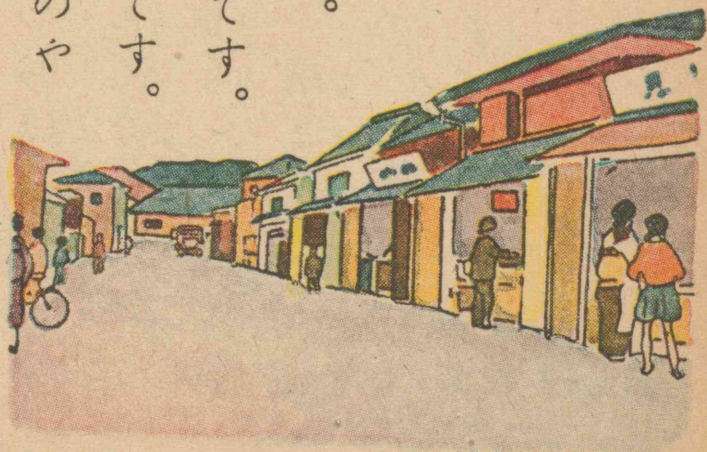
クレヨンや ちようめんな
 どが ならべて あります。
 この あいだ ぬりえを
 かいました。いろいろ ち
 がつた ぬりえが 十ばか
 り ありました。その 中
 から えらんで 二つ か
 いました。おばさんが し
 んせつに どれが よいか
 おしえて くれました。お

ます。みせの どまは いつも
水で きれいに あらって あり
ます。

さかなやの となりは ぎっか
やです。たばこも うって います。

ぎっかやの となりは くすりやです。
くすりやの となりは とけいやです。

この ほか こまものや たねものや
ごふくや にくや さかや でんきや せとものやなど
いろいろな みせが あります。



(二) おまわりさん

なかよしの あさおくんが、もう 一しゅうかんも
学校を やすんで います。先生の おはなしでは、び
ょうきで ねて いるのだそうです。ぼくは あさおく
んの うちへ みまいに 行きたいと おもいました。
あさおくんの うちへは まだ 行った ことが あり
ません。あさおくんの うちへは 町はずれの方へ あ
るのだそうです。おかあさんに おねがいして つれて
行って いただく ことに しました。



すぐ わかりました。あさおくん
 も あさおくんの おかあさんも
 大へん よろこびました。あさお
 くんの おかあさんが、
 「わたくしの 家は なかなか
 わかりにくい ところですが、
 よく おわかりに なりました」
 ね。」
 と おっしゃいますと、ぼくの
 おかあさんは、

大どおりに 出て
 しばらく 行きます”
 と こうばんが あ”
 りました。おかあさ”
 んは そこに 立って いた
 おまわりさんに、あさおくんの
 うちへ 行く みちを おきき”
 に なりました。おまわりさん”
 は ていねいに みちを おしえて くださいました。
 おまわりさんの おかげで あさおくんの うちへ



「ええ、すぐ わかりました。

こうばんの おまわりさんに
きいて 来た ものですから。」

と、おこたえに なりました。

ぼくも あさおくんは、

「おまわりさんは しんせつだ

ね。」

と いいますと、あさおくんは、

「はるおくん、ぼくは まい日

学校へ 行く とき、こうば

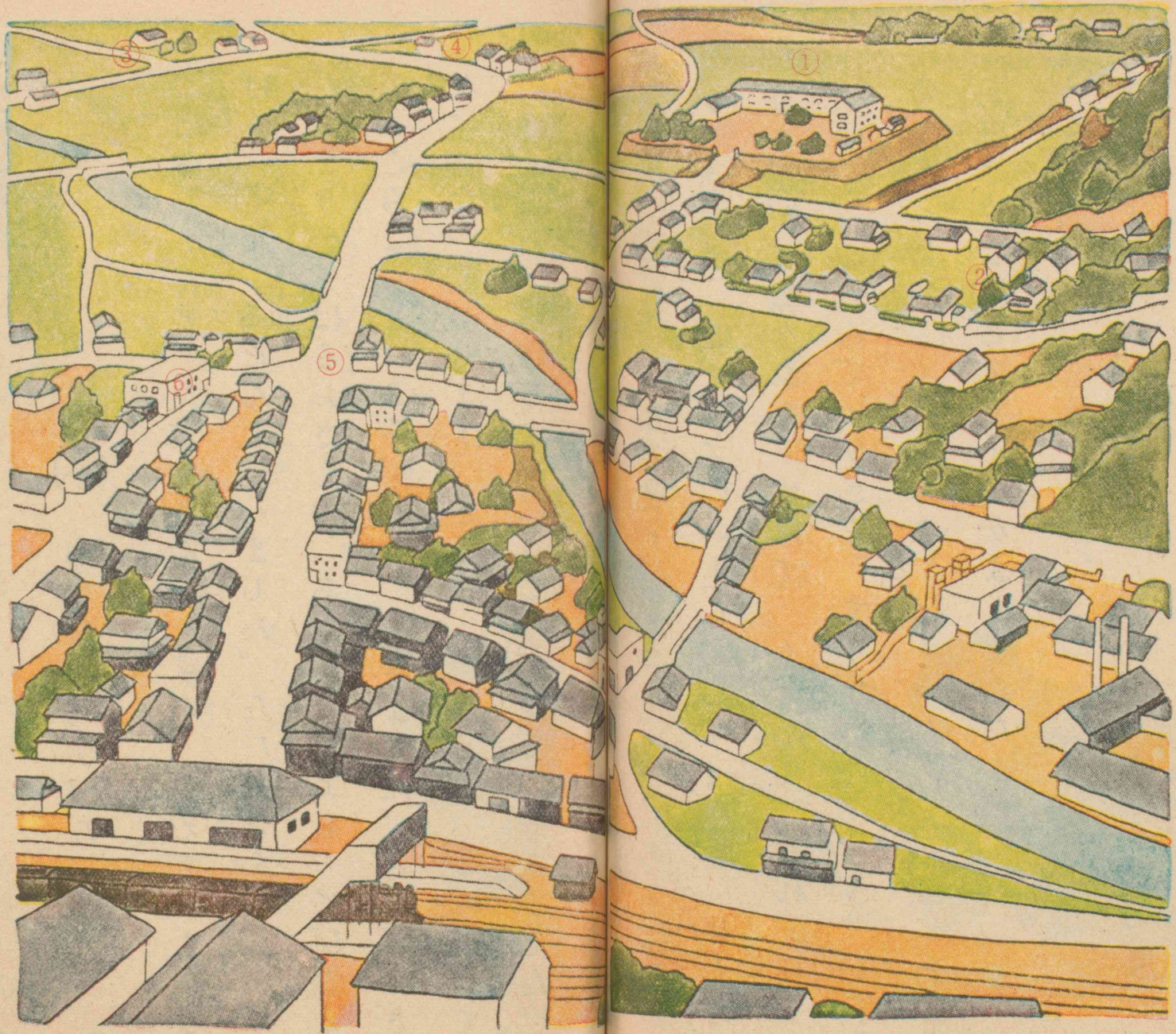


んの まえを とおるんだ。いつか、げたの はなお
が きれて こまって いたら、こうばんの おまわ
りさんが はなおを すげて くれたよ。それから
いつか ころんで ひざを すりむいた とき、くす
りを つけて くれたのさ。ぼくは あそこの おま
わりさんと とても なかよしなんだよ。」

と いいました。

あさおくんの びょうきも だいぶ よく なって

いて、もう 二三日 たてば、また 学校へ 出て こ
られるそうです。



- ① 学校
- ② はるおくんの家
- ③ あさおくんの家
- ④ こうばん
- ⑤ やくば
- ⑥ ゆうびんきょく

○おまわりさんは はるおくんたちに どのように おしえたのでしょうか。
 ○はるおくんが 学校へ 行く みちじゅんを いって みましよう。



九 どうわ

(一) みえなく なった まり

はるおさんと ただしさんが 家の まえで まりなげをして あそんで いました。ただしさんの なげ" た まりが、はるおさんの あたまの上を とびこえて、ころころと ころがって 行きました。みちが さかに なって います。まりは どんどん ころがって 行きました。にげるように ころがって 行きました。



はるおさんは
いっしょうけんめい
おいかけました。さかを
おりきつた ところの みぞの
あたりで、まりが みえなく なりました。
はるおさんは しまったと おもいました。

はるおさんは、「まりさん まりさん どこへ 行った。と いいながら、みぞの 中を のぞいて みました。まりさんは いません。みぞの むこうの くさむらさをさがして みました。やっぱり まりさんは いません。

大きな石がくさの中に
 かおをみせています。その
 石のうしろものぞいてみ
 ました。やっぱりいません。
 はるおさんはこまってしま
 いました。もうかえろうかと
 おもいました。あるきかけると、
 「ちよつとおまちなさい。ここへ
 おかけなさい。」
 と、だれかがいったようなきが
 しました。だれが
 いったのだらうと はるおさんは
 ふりかえりました。



「あつ、石がいったのだ。」
 はるおさんはそんなきがして、石にこしを
 かけました。石にこしを かけて、どこをさがそう
 かと かんがえました。
 「もう一どくさむらの 中」
 をさがしなさい。
 と、また石がいったように
 おもいました。はるおさんは
 石のいうとおりにしまし
 た。もう一どくさむらの



中へはいって 行きまし
た。どげの ある くさが
いっぱい ひろがって い
ます。でも はるおさんは
げんきを だして 行きま
した。
すると どうでしょう。
しげった くさの 中に、
かくれるように まりさん
がいるでは ありません

か。はるおさんは うれしく なって まりを つかも
うと しました。そして はっと しました。まりさん
の そばに、みた ことも ない 大きな 白い 花が
さいて います。白い 花は まりさんの 方にかお
を むけて います。ふたりで 何か はなし合っ
ているようです。はるおさんは しばらく じっと して、
まって いました。

「まりさん、はるおさんが 来て よかったね」

白い 花が、そんな ことを まりさんに いったよ
うな きが しました。

「では、白い 花さん さようなら。」
 といって、まりさんが おじぎを したように おも
 いました。はるおさんは、
 「白い 花さん、まりさんと
 いっしょに かえりますよ。
 げんきで さいて いて
 ください。さようなら。」
 といつて、かえつて
 行きました。



(二) とんぼ

小川の そばの 水たまりが、あさ
 の ひかりに きらきらと かがやい
 て いました。つゆに ぬれた はに、
 生まれたばかりの とんぼが うすい

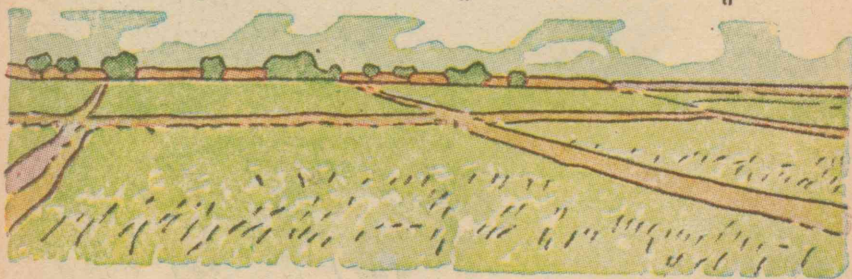


はねを ふるわせて いました。
まもなく とんぼは とびあが
りました。

あきの 空は 青く すんで
いました。かぜが すこし ふい
て いました。

とんぼは 大きな 目だまを
くるくる うごかしながら とん
で 行きました。

下には いちめん に きいろい



たんぼが つづいて いました。
かぜに ふかれて、いねの ほが
波のように ゆれて いました。

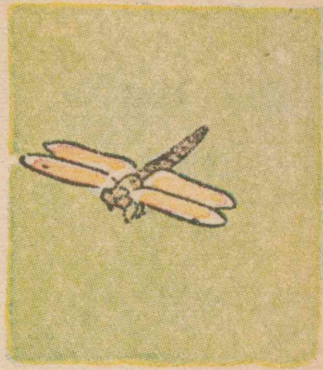
とんぼは 一本の いねの ほ
に とまりました。

「いねさん、こんにちは。すこし
やすませて くださいね。」

と、とんぼは
いいました。

「どうぞ、ゆっくり





やすんで いきなさい。」

と、いねは いいました。

とんぼは いねの ほど いっしょ
に ゆれながら やすみました。

「とんぼさん、あなたは けさ 生まれたばかりなんで
すね。あまり とおくへ とんで 行くと つかれて
しまいますよ。」

いねが しんせつに そう 行って くれました。

「ありがとう。でも わたくしは もっと もっと と
おくへ とんで 行って、いろんな ものを みたい」

のです。」

とんぼは 目だまを うごかしながら こたえました。

とんぼは いねに おれいを

いって、また とびあがりまし

た。かぜに ふかれながら ど

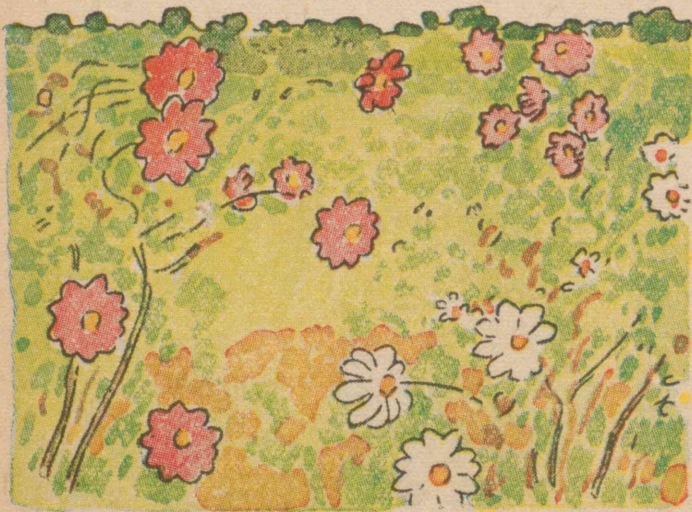
んどん とんで 行きました。

ひろい のはらに 来ました。

赤い 花や 白い 花が たく

さん さいて いました。

「まあ、きれい。」



とんぼは そう いいながら、
赤い 小さい 花に とびおりて
行きました。

「はぎさん、はぎさん。あなたは
いつも きれいですね。」

と、とんぼは いいました。

「いいえ、すぐ ちって しまっ

から わたしなんか だめですよ。とんぼさんこそ

きれいな はねを して どこへでも とんで 行け

て いいですね。」

はぎは うらやましそうに いいました。そして ま

た たずねました。

「これから どこへ とんで 行くのですか。」

「わたくしは ほうぼうへ とんで 行きたいのです。

まだ 生まれたばかりで 何も しらないのですから。」

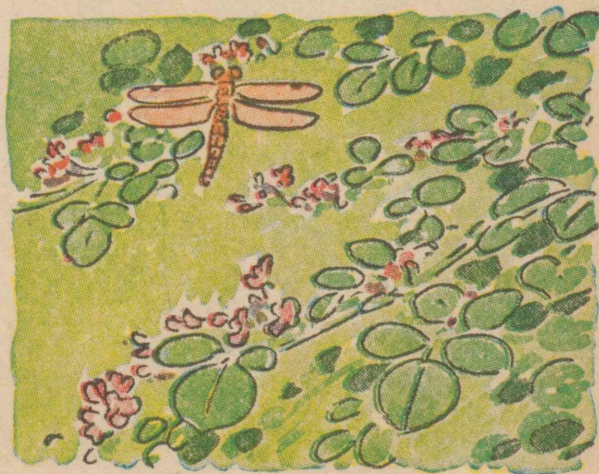
「それなら あまり とおくまで 行って、いたずらな

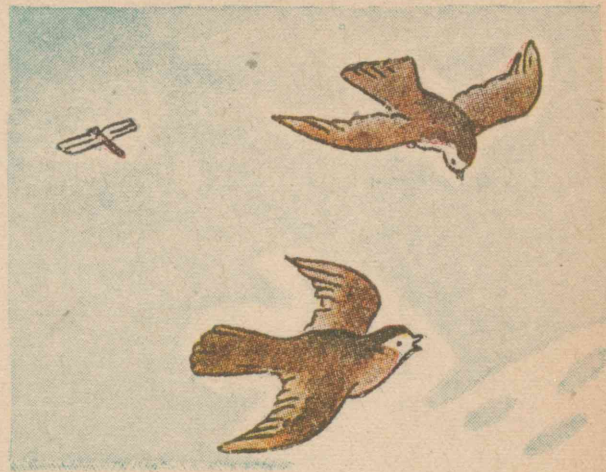
子どもたちに いじめられないように きを つけな

ければ なりませんよ。」

はぎは いねと おなじように しんせつに 行って

くれました。

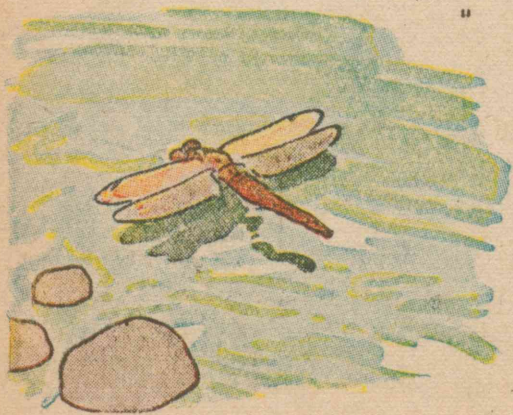




小どりたちが たのしそうに とんで 来るのに あ
いました。
「とんぼの 子どもが とんで いるよ。」

とんぼは また とんで 行き
ました。こんどは まえよりも
空 たかく とんで 行きました。
「いたずらな 子どもたちに い
じめられるって なんだらう。」
そう おもいながら、すいすい
とんで 行きました。

「ひとりで どこへ 行くのかな。」
小どりたちは そんな ことを いいながら すれち
がって 行きました。
「わたくしは いろんな ものを みたいのですよ。」
とんぼは 小どりたちの うしろか
ら 大きな こえで いいました。
まもなく 川の上に来ました。
川は さらさら 音を 立てて な
がれて いました。
とんぼは のどが かわいたので、



川のほとりに おりました。水を のむと すこし
ねむく なりました。とんぼは くさの はの 上に
はねを やすめて、いつか
ねむって しまいました。
「あつ、とんぼだ。つかま
えよう。」
いままで きいた こと
もない 大きな こえが
しました。
とんぼは びっくりして



目を さましました。とびあがろうと しましたが、は
ねが うごきません。とんぼは 男の 子どもに つか
まえられて しまいました。
むこうから 女の 子どもが 来ました。
男の 子どもが いいました。
「ねえさん、はやく 来て ごらん。こんな かわい
い とんぼを とったよ。」
「ほんとに かわいいわね。」
「もって かえろうか。」
「だけど かわいそうよ。」



女の子どもが、とんぼの　くるくる　うごく　目だ
まを　みながら　いいました。

「まだ　生まれたばかりじゃ　ないの。はなして　やり
ましようよ。」

とんぼを　とった　男の　子どもは、ちよつと　つま
らなそうな　かおを　しましたが、きゆうに　げんきに、
「じゃ　ねえさん、ぼく　はなして　やるよ。」

と　いいました。

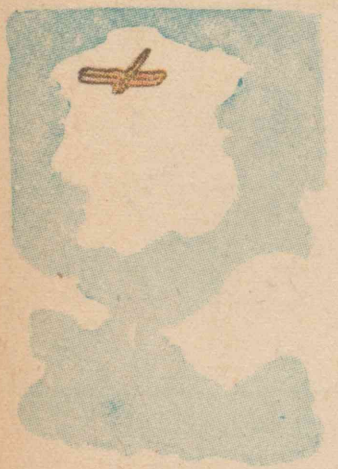
とんぼは　すつと　空に　むかって　はなされました。
とんぼは　ちよつと　まごつきましたが、やがて　青

い　青い　空の　下を、また
すいすいと　とんで　行きました
た。

「いじめられないで　ほんとう
に　よかった。みなさん　ど
うも　ありがとう。」



とんぼは　みんなに　おれいを
いって　うすい　はねを　ひから
せながら、かぜに　ふかれて　と
んで　行きました。



ン	ん	ワ	わ	ラ	ら	ヤ	や	マ	ま	ハ
		(キ)	(ゐ)	リ	り	イ	い	ミ	み	ヒ
		ウ	う	ル	る	ユ	ゆ	ム	む	フ
		(エ)	(ゑ)	レ	れ	エ	え	メ	め	ヘ
		ヲ	を	ロ	ろ	ヨ	よ	モ	も	ホ

は	ナ	な	タ	た	サ	さ	カ	か	ア	あ
ひ	ニ	に	チ	ち	シ	し	キ	き	イ	い
ふ	ヌ	ぬ	ツ	つ	ス	す	ク	く	ウ	う
へ	ネ	ね	テ	て	セ	せ	ケ	け	エ	え
ほ	ノ	の	ト	と	ソ	そ	コ	こ	オ	お

パ	ぱ	バ	ば	ダ
ピ	ぴ	ビ	び	ヂ
プ	ぷ	ブ	ぶ	ヅ
ペ	ぺ	ベ	べ	デ
ポ	ぽ	ボ	ぼ	ド

だ	ザ	ざ	ガ	が
ぢ	ジ	じ	ギ	ぎ
づ	ズ	ず	グ	ぐ
で	ゼ	ぜ	ゲ	げ
ど	ゾ	ぞ	ゴ	ご

ピ	ぴ	ビ	び	ヂ	ぢ	ジ	じ	ギ	ぎ	リ	り
ヤ	や	ヤ	や	ヤ	や	ヤ	や	ヤ	や	ヤ	や
ピ	ぴ	ビ	び	ヂ	ぢ	ジ	じ	ギ	ぎ	リ	り
ユ	ゆ	ユ	ゆ	ユ	ゆ	ユ	ゆ	ユ	ゆ	ユ	ゆ
ピ	ぴ	ビ	び	ヂ	ぢ	ジ	じ	ギ	ぎ	リ	り
ヨ	よ	ヨ	よ	ヨ	よ	ヨ	よ	ヨ	よ	ヨ	よ

ミ	み	ヒ	ひ	ニ	に	チ	ち	シ	し	キ	き
ヤ	や	ヤ	や	ヤ	や	ヤ	や	ヤ	や	ヤ	や
ミ	み	ヒ	ひ	ニ	に	チ	ち	シ	し	キ	き
ユ	ゆ	ユ	ゆ	ユ	ゆ	ユ	ゆ	ユ	ゆ	ユ	ゆ
ミ	み	ヒ	ひ	ニ	に	チ	ち	シ	し	キ	き
ヨ	よ	ヨ	よ	ヨ	よ	ヨ	よ	ヨ	よ	ヨ	よ

べんきょうの手びき

一 ひよこ

1 ひよこの うたを いくども
よんで、ほんを みなくても
いえるように けいこを しま
しよう。

2 この うたを よく よんで

ひよこの えを かきましよう。

3 ひよこが かえるまで おやど
りは たまごを どう して
いますか。

4 おやどりが たまごを あた
めはじめてから 二十日目
になると、たまごは どう なり
ましたか。

5 ひよこが かえって 二日目に、

おじいさんは ひよこを どう
しましたか。おばあさんは ど
んな ことを しましたか。お
とうさんは どんな ことを
しましたか。ちようめんにか
いて みましよう。

6 おやどりは ひよこに えさの
たべかたを どんなに して
おしえますか。

7 あなたの きんじよで、ひよこ
を かって いたら、ひよこを
みて さくぶんを かけて み
ましよう。

二 えんそく

(一)

1 えんそくの 日、学校に あつ
まった せいとは どんな こ
とを いて いますか。

2 校ちよう先生の おはなしを
きいて、みんな げんき よく
ほい。こたえました。みんな
は どんな きもちで ぼいど
いったのでしよか。みんなて
はなしあいましよう。

3 火のみやぐらを すぎると あ
たりの ようすは どう なり
ましたか。

4 どう ちがいますか。
「みんな おいしいそな べん

(二)

1 こどもの きしゃの うんてん
しゅは だれですか。うんてん
しゅは ときどき どんな こ

どうを たべて いますね。
「みんな おいしいそな べん
どうを たべて いますね。」
5 つぎの 「い」を つけた こ
とばは どんな ときに つか
うのでしよか。
みんな いちい いいま
した。
ひがし山も すぐ 目のまえ
に みえます。
みどりの 木の はの トン
ネルの 中を ぬけました。

とを しましたか。

2 ぶらんこが ゆれて いる よ

うすを はなして みましよう。

3 そらいろの じどうしゃと、み

かんいろの じどうしゃと、ど

んなに はしって いきますか

はなして みましよう。

4 ボートが いけを すべって

いく ようすを ちようめんに

かいて みましよう。

三 いろいろな もの音

(一) きしゃの 音

つぎの 音は きしゃが どう

して いる ときの 音でしょ

うか。

ビー

(二)

シュツ シュツ ホツ ホツ
ゴトゴトガツタン ゴトゴト
ガツタン

みなどの 音

みなどから きこえて くる

音が かいて あります。

いそがしそりに はしって い

る ふねの 音。

きかいの うごく 音。

なみの 音。

きてきの 音。

これらの 音を どう かいて

ありますか。ちようめんに か

いて みましよう。

いろいろな もの音

あなたは つぎの 音の 中で

(三)

どんな 音が すきですか。
どけいの 音。あまだれの 音。

2 この ほかの いろいろな 音

を はなしあいましよう。

ふえの 音。たいこの 音。ビ

アノの 音。学校の かねの

音。

四 いね

(一) 田うえ

1 おじさんたちが 田に なえを

うえつけて いる ようすを

ちようめんに かいて みまし

よう。

2 「の 中の ことばは だ

れが いった ことばですか。

3

「おとうさん、おちやを はこ

んで きましたよ。」

「ありがとうございます。おお、すすむも

きて くれたのか。」

「さだおさん、まい日 ごくろ

うさんですね。」

「大きな どじょうを とって

おいたぞ。」

「ずいぶん いるね。」

「ことしは 水が たくさん

あるので 大だすかりだ。」

よう。

ど、おとうさんが みんなに
こえを かけました。
「みなさん、やすみに しまし
よう。」

ど、おとうさんが みんなに
いいました。

4 田うえの えを かい て みま
しよう。

(二)

1 いねが 大きく なるまで
なわしろに なにを まきます
か。よい こたえに ○を つ
けなさい。

こめを まきます。
いねを まきます。
もみを まきます。

なえを まきます。

2 しろかきど いうのは どんな
しごとですか。よい こたえに
○を つけなさい。

田を たがやす しごとです。
田に 水を入れる しごと
です。

うしか うまを つかう し
ごとです。

水の はいった 田を なら
す しごとです。

3 ゆうがとうは なんの ために
つけますか。よい こたえに
○を つけなさい。

よる あかりを つける こ
とです。

よるの 田を きれいに す
る ことです。

いねに つく 虫を よびよ
せる ためです。

田を あかるく する ため
です。

五

(一)

1 おはなしかいを するの に ど
んな じゆんびを したてしよ
うか。ちようめんに かい て
みましよう。みんなで そうじ
を したてしようか。どんな
花を かざったてしようか。こ
くばんに なにを かい たてし
ようか。いすは なんの ため

(二)

1 おはなしかい
おはなしかいで つぎの こと
は だれが しましたか。い
って みましよう。
おはなしかいを はじめる
あいさつ。
イソツブの おはなし。
「さぎと かめの かみしば

い。
なぞなぞ。

おじいさんの おはなし。
ワシントンの おはなし。

2 あつ子さんの した あいさつ。
を ちようめんにかいて みましよう。

(三) 1 みち子さんの した おはなし
おじいさんは どんな 小どりを かって いますか。

2 おじいさんは 六月十日に なるど まいねん なんと いい ますか。ちようめんにかいて みましよう。

(四) 1 うちに かってから
あなたの 学校から みて ひ

がしの方になが みえま
すか。みんなではなしあつて
みましよう。

2 よし子さんの うちでは どん
な おはなしかいを したてし
ようか。みんなではなしあつ
て みましよう。

六 水あそび
(一) 1 水でっぽう
かけるど、こいは どう しま

2 かえるに 水を かけると ど
う しましたか。

3 うめの 木に 水を かけてか
ら、こんどは どんな ことを

おもいましたか。

(二) 川あそび

1 川で はるおくと あさおく
んは なにを して あそんで
いますか。

2 つぎの ぶんは どのようにに
ちがうでしょうか。
ともだちに 水を かけまし
た。

ともだちに こえを かけま
した。

(三)

1 ささぶねの うたを いくども
よんで ほんを みなくても
いえるように しましよう。

2 ささぶねを つくって あそび

ましよう。

七 えにつき

(一) 1 先生の はなし
えにつきの かきかたを はな
して ごらんなさい。

2 どこが まちがって いるか、
ほんの ぶんと 合わせて し
らべて みましよう。

えにつきを かきたいと ゆ
う 人が 多かったので 先
生が えにつきの はなしを
なさいました。

(二)

1 はるおさんの えにつき
はるおさんの えにつきを よ
んで、つぎの ことを しらべ
て みましよう。

てんきは どうですか。
えにつきには だれと だれ
の ことを かいて います
か。でて いる 人の なま
えを しらべて みましよう。
2 あなたも この 一しゅうかん
の えにつきを かいて みま
しよう。

八 町

(一) いろいろな みせ
1 本を よんで いろいろな み
せの なまえを ちようめん
かいて みましよう。
2 その いろいろな みせは な
にを うって いるか、みんな
で はなしあいましよう。

(二)

3 本を みて つぎの ものは
どこの みせで うって いる
か、しらべて みましよう。
ぬりえ。せんめんき。クレヨ。
ン。え本。ボール。ぞうり。
りんご。バケツ。たばこ。水。
とう。
1 おまわりさん
本を よんで 本と ちがって
いる ところを なおしましよ
う。
はるおくんは 学校へ 行く
とき、こうばんの まえを
とおる。
あさおくんの びょうきは
だいぶ よく なった。

「わたくしの 家は なかなか
わかりにくい ところですが、
よく おわかりに なりまし
たね。」
と、はるおくんの おかあさ
んが いました。
2 つぎの 上の ことばと 下の
ことばを よく よんで、つづ
けられたら、――で つなぎな
さい。
げたの。 はなおを すぎる
ひぎを すげる
こうばんの まえを すりむく
3 町の えを みて いろいろな
ところへ 行く みちじゆんを
はなしあいましよう。

九 どうわ

(一) みえなく なった まり
1 「もう 一ど くさむらの 中を
さがしなさい。」と、だれが だれ
に いったのでしょうか。
2 「まりさん、はるおさんが 来て
よかったねと、だれが だれに
いったのでしょうか。」

○あいきつ
 あいず (46)
 あいだ (9)
 あかり (43)
 あき (96)
 あさい (62)
 あたたかい (13)
 あつい (42)
 あてる (11)
 あひる (68)
 あびる (13)
 あまだれ (34)
 あめんぼう (29)
 アメリカ (54)

(54) (29) (34) (13) (68) (11) (42) (13) (62) (96) (43) (9) (30) (46)

あらものや
 あわてる
 ○いけ
 イギリス
 いじめる
 いす
 イソップ
 いね
 ○うえる
 うく
 うけそこなう
 うし
 うま
 うめ

(59) (18) (41) (62) (69) (37) (36) (47) (45) (102) (54) (29) (51) (76)

○えさ
 えにつき
 えらぶ
 えんそく
 ○おかし
 おき
 おくる
 おこる
 おしえる
 おちや
 おてんき
 おとうと
 おまわりさん
 おもしろい

(56) (81) (36) (15) (36) (14) (12) (17) (33) (68) (15) (40) (66) (11)

あたらしく 出た おもな ことば

(二)
 1 どんぼは どこで 生まれましたか。
 2 いねさんが どんぼに しんせつな ことを 二つ いいました。 ちようめんに かいて みました。
 3 はぎさんは どんぼの どんな ところが うらやましかつたのでしょうか。
 4 本を よんで、つぎの (一)の 中に じゆんじよ よく ばんごうを 入れましょう。
 (一)つゆに ぬれた くさに 生

まれたばかりの どんぼが うすい はねを ふるわせて いました。
 (一)どうぞ、ゆっくり やすんで いきなさいと、いねは いい ました。
 (一)水を のむと すこし ねむく なりました。
 (一)赤い 花や 白い 花が たくさん さいて いました。
 (一)どんぼは 男の 子どもに つかまえられて しまいました。
 (一)「いじめられないで ほんとうに よかった。みなさん、どうも ありがとう。」

ころぶ
○さか
さかなや
さかや
さけぶ
ささぶね
さそい
さば
さわぐ
さわる
ざっかや
ざっし
○しげる
しごと
しばらく
しめる

(22) (82) (42) (22) (77) (80) (12) (61) (79) (60) (64) (51) (80) (79) (88) (85)

しゃしん
しゅっぱつ
しろかき
じゅうしまつ
じゅぎょう
じゅんび
じょうず
○すげる
水とう
すずめ
すべる
すみれ
すりむく
すれちがう
○せかい
せとものや

(80) (54) (103) (85) (24) (29) (8) (19) (85) (27) (41) (44) (50) (41) (16) (56)

せなか
せまい
せんめんき
○そうじ
そよかせ
ぞうり
○大へん
田うえ
たき
たずねる
たたく
たな
谷川
たねものや
たのしみ
たばこ

(80) (13) (80) (21) (77) (9) (101) (15) (36) (43) (75) (65) (50) (77) (20) (13)

おもちや
およく
おわる
おんがく
○かくれる
かさ
かじやさん
かぶる
かぼちや
かみしばい
かもめ
かわく
かわら
○きかんしゃ
きし
きせん

(32) (32) (31) (18) (103) (33) (47) (76) (53) (35) (72) (92) (48) (39) (57) (74)

きてき
きやべつ
キヤラメル
きょうしつ
きんじょ
○くうき
くだものや
くちばし
くに
くもり
くりきんとん
クレヨン
○けいと
けさ
けしゴム
げた

(74) (77) (68) (53) (78) (52) (68) (54) (12) (75) (11) (36) (44) (76) (76) (30)

けんかん
○こい
校ちよう先生
校てい
こうばん
こくばん
ここ
こし
こしかける
ことば
こまものや
ごくろうさん
ごふくや
ゴムまり
ころがる
ころす

(43) (88) (62) (80) (38) (80) (48) (45) (23) (74) (45) (82) (16) (16) (57) (51)

たべかた
たまご
たら
たく
だれ
○ちがう
チュウインガム
ちようし
ちようめん
ちりとり
○つかう
つかむ
つかれる
つづく
つめたい
つゆ

○ぬける
にもつ
ぬりえ
ぬれる
○のき下
のど
のびる
のむ
○はきものや
はだか
はつきり
はつどうきせん
はなお
花火
はなれる
はね

(7) (18) (71) (85) (33) (48) (61) (74) (19) (42) (103) (34) (58) (78) (20) (33)

はやし
春
はれ
ハンドル
○ひかり
ひがし
ひごい
ひぎ
日なたぼっこ
火のみやぐら
ひよこ
ひろい
○ふうりん
ふかい
ふた
ぶどう

(75) (12) (62) (35) (99) (4) (17) (50) (85) (29) (55) (95) (28) (69) (13) (27)

ぶらんこ
ぶりこ
プログラム
ぶんちょう
○ベル
べんどう
○ほうき
ほどり
ほね
ほめる
ほうふら
ポート
ポール
○まい日
まいねん
まがる

(21) (52) (13) (74) (29) (73) (53) (42) (104) (76) (23) (30) (50) (45) (34) (27)

(95) (11) (17) (98) (93) (41) (76) (78) (48) (76) (78) (21) (6) (79) (6) (14)

つるす
○ていねい
てる
てるてるぼうず
でんきや
でんぼう
○とうきよう
とうふ
とおり
とげ
とけい
とどく
ともす
トラック
とんぼ
とじょう

(38) (95) (33) (43) (27) (34) (92) (21) (52) (54) (35) (30) (15) (17) (82) (50)

とて
どま
どれ
○なえ
なく
なし
なつ
なべ
波
なれる
なわしろ
○にあげ
にくや
にぎやか
にこる
にし

(55) (39) (36) (80) (33) (40) (69) (32) (77) (66) (75) (7) (37) (64) (80) (39)

町 (74)	雨 (51)	右 (21)	下 (7)
本 (74)	夕 (53)	谷 (21)	学 (9)
家 (83)	出 (57)	空 (27)	校 (9)
何 (93)	行 (60)	音 (30)	春 (13)
青 (96)	足 (63)	波 (32)	門 (17)
赤 (99)	走 (64)	田 (36)	火 (17)
男 (105)	多 (67)	虫 (40)	村 (18)
女 (105)	来 (72)	花 (44)	川 (18)

みなど	みなさん	みちしるべ	みぞ	水でっぼう	水あそび	水	みそしる	右	○みかんいろ	まり	まちどおしい	まちきれない	また	まごつく	まごい
(32)	(38)	(21)	(89)	(57)	(57)	(11)	(52)	(21)	(28)	(62)	(7)	(7)	(11)	(106)	(29)
ゆうがとう	ゆうがた	○ゆうえんち	やまぶき	やくば	○やがて	もり	もらう	もみ	○もぐる	村はずれ	むける	むく	○むかえ	みまい	みなみ
(43)	(7)	(25)	(44)	(19)	(16)	(31)	(71)	(40)	(10)	(18)	(93)	(38)	(72)	(81)	(55)
わるい	わらび	わたげ	ワシントン	わかりにくい	わかば	○わし	○れんげ	よろこぶ	よぶ	よせる	ようやく	○ようす	ゆれる	ゆつくり	夕はん
(43)	(24)	(4)	(48)	(83)	(22)	(52)	(17)	(83)	(37)	(32)	(59)	(53)	(27)	(97)	(53)

編集にたずさわった人

監修者 学士院会員 柳田 国男
芸術院会員 岩井 良雄
編集委員 東京教育大学教授 岩淵悦太郎
国立国語研究所員 大藤 時彦
民俗学研究所理事 上飯坂好実
東京杉並第四 鳥山 榛名
小学校校長 橋本芳一郎
山梨大学教授 橋本芳一郎
東京学芸大学 橋本芳一郎
助教授 東京書籍株式会社編集部

さしえ及び装てい

大沢 昌助

あたらしいこくご二ねん上(小) 小国二〇七
(第二学期用校)

昭和二十五年二月十日 第一刷発行
昭和二十五年十月一日 第二刷印刷
昭和二十六年二月二十日 第二刷発行
定価 四十七円
(昭和二十四年十月十日 文部省検定済)

Approved by Ministry of Education
(Date Sep. 12, 1950)

著作者	東京書籍株式会社編集部
代表者	藤田 貞次
発行者	東京都北区堀船町一丁目八五七番地 東京書籍株式会社
代表者	山田 三郎 太
印刷者	東京都台東区二長町一番地 凸版印刷株式会社
代表者	山田 三郎 太

発行所 東京書籍株式会社

(出版権の設定登録及び表紙の意匠、装てい登録中)



広島大学図書

広島大学図書

0130449881



東京書籍株式会社

文庫

49

881